

環境概況調査委託
(2北南—小金井3・4・11外1路線)

報 告 書

令和3年11月

東京都 北多摩南部建設事務所
ユーロフィン日本環境株式会社

目 次

1	業務概要	1
1.1	業務件名	1
1.2	業務の目的	1
1.3	履行場所	1
1.4	調査範囲の概況	1
1.5	業務内容	5
1.6	履行期間	6
2	調査方法	7
2.1	植物調査	7
2.1.1	植物相調査	7
2.1.2	植物群落調査	7
2.1.3	植生図作成	7
2.2	動物調査	7
2.2.1	哺乳類調査	7
2.2.2	鳥類調査	8
2.2.3	両生類・爬虫類調査	9
2.2.4	魚類調査	9
2.2.5	昆虫類調査	10
2.2.6	底生動物調査	11
2.3	重要種の選定基準	12
3	植物調査結果	14
3.1	植物相調査	14
3.2	植物群落調査	27
3.3	植生図作成(植生分布)	37
4	動物調査結果	39
4.1	哺乳類調査	39
4.2	鳥類調査	43
4.2.1	調査結果	43
4.2.2	重要種	48
4.3	両生類・爬虫類調査	51
4.4	昆虫類調査	57
4.4.1	現地調査	57

4.4.2	既往資料による重要種.....	67
4.5	魚類調査.....	68
4.5.1	現地調査.....	68
4.5.2	既往資料による確認種.....	72
4.6	底生動物調査.....	73
4.6.1	現地調査.....	73
4.6.2	既往資料による重要種.....	76
5	考察及びモニタリング計画案作成.....	77
5.1	調査結果の考察.....	77
5.1.1	植物相.....	77
5.1.2	動物相.....	77
5.2	モニタリング計画(案)の策定.....	80
5.2.1	調査項目の選定.....	80
5.2.2	対象とする重要種.....	82
5.2.3	調査内容.....	86
5.2.4	調査期間.....	88

資料

写真集

植物相調査写真.....	写真-1
植物群落調査写真.....	写真-21
哺乳類調査写真.....	写真-29
鳥類調査写真.....	写真-37
両生類・爬虫類調査写真.....	写真-47
魚類調査写真.....	写真-55
昆虫類調査写真.....	写真-61
底生動物調査写真.....	写真-87

許可関係書類

都立公園における行為の許可書.....	許可関係書類 - 1
鳥獣捕獲許可.....	許可関係書類-11
魚類特別採捕許可.....	許可関係書類-23

1 業務概要

1.1 業務件名

環境概況調査委託(2北南—小金井3・4・11外1路線)

1.2 業務の目的

小金井都市計画道路3・4・11号線及び府中都市計画道路3・4・16号線からなる府中東小金井線は、甲州街道を起点として五日市街道に至る延長約5kmの都市計画道路である。

本路線は、市街化が進む東京西部では貴重な自然である「国分寺崖線」や「野川」、「武蔵野公園」と交差することから、十分に自然環境へ配慮することが求められている。

本業務はこうした背景を踏まえて、同路線が野川を横切る約400mの区間の周辺部について動植物の基礎調査を行い、今後のモニタリングの計画案を策定することを目的として実施したものである。

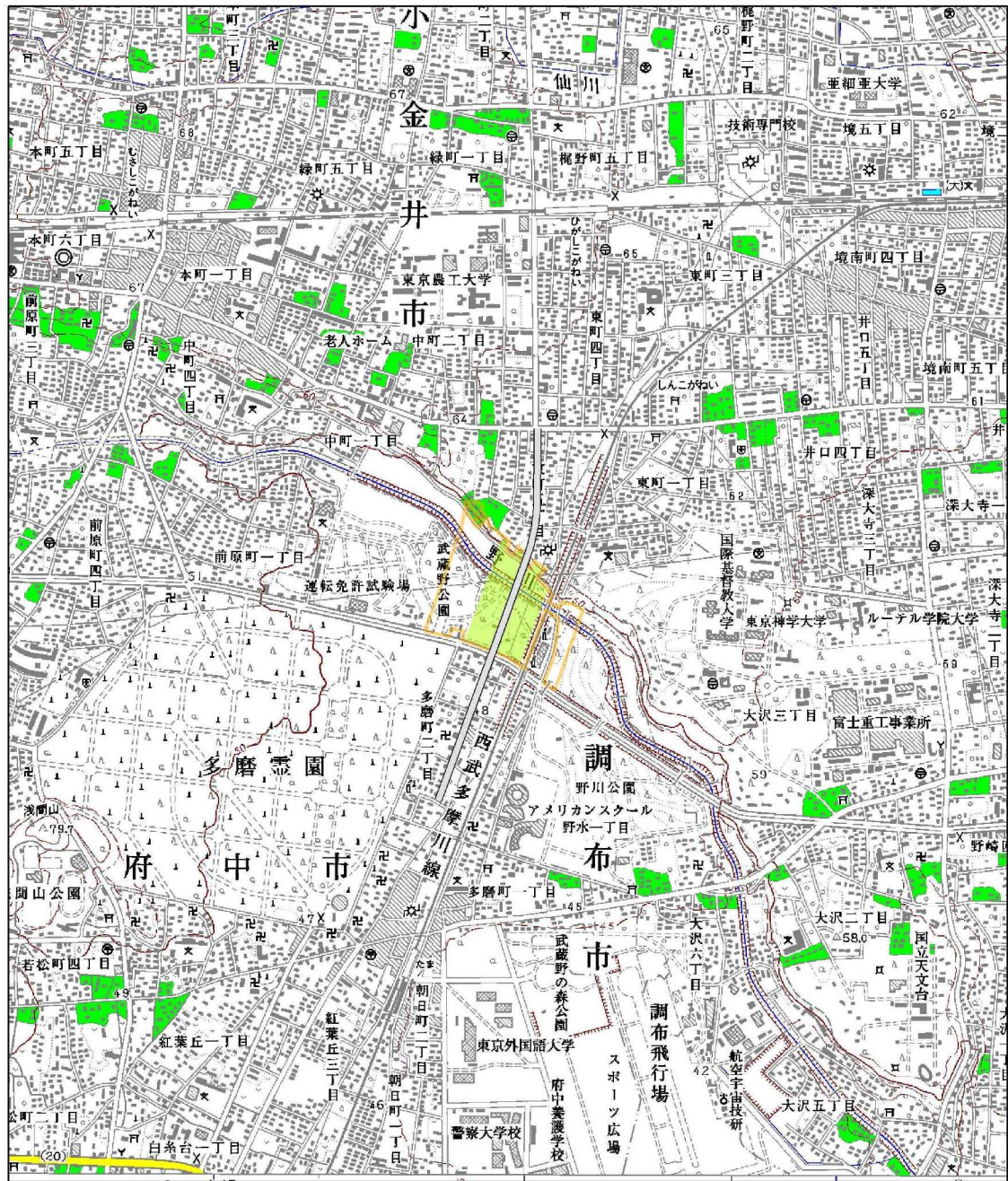
なお、道路計画地付近の野川では、平成18年度に「野川第一・第二調節池地区自然再生全体構想」が策定され、自然再生事業が実施されている。

1.3 履行場所

東京都府中市多磨町二丁目地内から小金井市東町五丁目地内まで

1.4 調査範囲の概況

調査範囲は、都立武蔵野公園と都立野川公園であり、北側に一級河川野川が東に向かって流れ、その北側は国分寺崖線の斜面となっている。この斜面は、一部が造成されているがコナラやクヌギなどの落葉広葉樹にシラカシなどの常緑広葉樹が混じる混交林で、一般市民が立ち入らない閉鎖管理地となっている。野川沿いの左岸側は調節池であるが、自然再生事業の対象地になっている部分があり、かつて野川周辺にみられた水田や湿地が復元されている。また、下流側の野川公園内はバードサンクチュアリとなっており、落葉広葉林内に池がみられる。野川の右岸側はケヤキやドイツトウヒなど多様な高木が植栽されており、苗圃となっている部分が広いが、一部は野球場やバーベキュー広場として整備されている。武蔵野公園と野川公園の間には西武多摩川線と調布市クリーンセンターの用地となっている。



—— 計画道路

調査範囲

項目

植物調査範囲

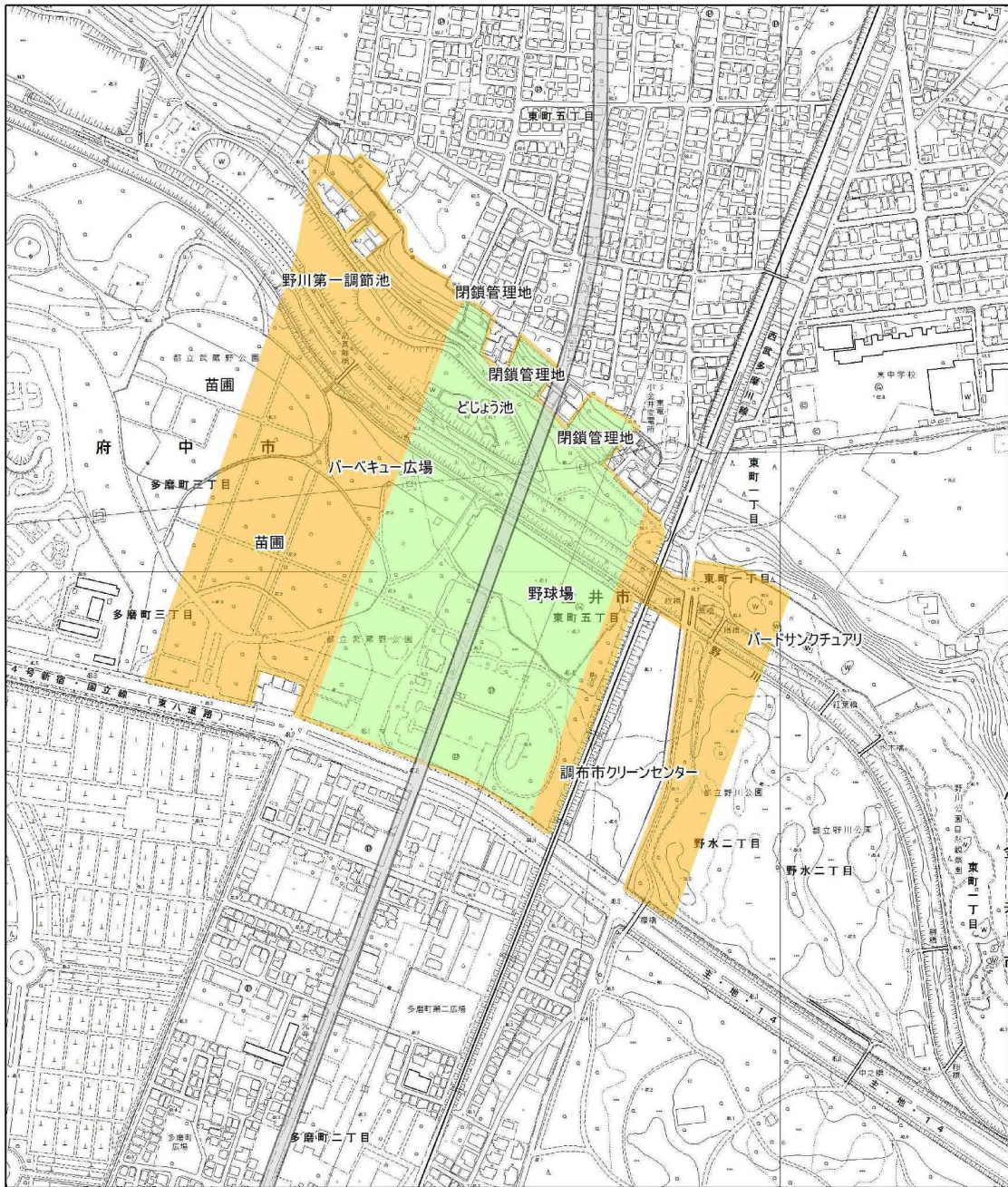
動物調査範囲

0 155 310 620 930 1,240

m



表 1.4-1 業務位置



凡例

— 計画道路

項目

■ 動物調査範囲

■ 植物調査範囲

□ 園内施設等

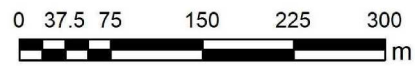


表 1.4-2 調査範囲の概況



凡例

計画道路

項目

植物調査範囲

動物調査範囲

園内施設等

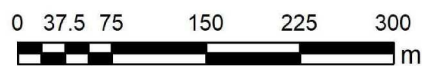


表 1.4-3 調査範囲周辺の航空写真

1.5 業務内容

業務内容と実施時期は表 1.5-1 に示すとおりである。

表 1.5-1 業務内容

調査項目		調査地点、調査範囲	実施時期
調査事前準備		既存資料調査、手続き、申請等	
植物調査	植物相調査	道路計画線端部から 100m 程度の範囲	早春(令和 3 年 3 月 17 日) 春季(令和 3 年 4 月 27 日) 夏季(令和 3 年 7 月 2 日) 秋季(令和 2 年 11 月 4 日)
	植物群落調査	道路計画線端部から 100m 程度の範囲、コードラート 7 カ所	夏季(令和 3 年 7 月 20 日)
	植生図作成	道路計画線端部から 100m 程度の範囲	-
	解析・考察	-	-
動物調査	哺乳類調査	道路計画線端部から 250m 程度の範囲、トラップ 2 箇所	春季(令和 3 年 4 月 19・20 日) 秋季(令和 2 年 11 月 12・13 日)
	鳥類調査	道路計画線端部から 250m 程度の範囲	冬季(令和 3 年 1 月 13 日) 春季(令和 3 年 5 月 11 日) 夏季(令和 3 年 7 月 6 日)
	両生類・爬虫類調査	道路計画線端部から 250m 程度の範囲	春季(令和 3 年 4 月 19・20 日) 夏季(令和 3 年 7 月 2 日)
	魚類調査	道路計画線端部から 250m 程度の範囲の河川(野川及び自然再生地)	夏季(令和 3 年 8 月 20 日)
	昆虫類調査	道路計画線端部から 250m 程度の範囲、トラップ 2 箇所程度	春季(令和 3 年 5 月 6・7 日) 夏季(令和 3 年 8 月 2・3 日)
	底生動物調査	道路計画線端部から 250m 程度の範囲の河川(野川及び自然再生地)	夏季(令和 3 年 7 月 29 日)※
考察及びモニタリング計画案作成	考察	-	-
	モニタリング計画案作成	-	-

※：底生動物調査は春季に予定していたが、調査対象区間の野川は 6 月下旬まで水が無く調査ができない状況だったことから 7 月下旬の実施となった。



令和3年3月17日



令和3年4月19日



令和3年6月24日



令和3年7月29日

春季から夏季の野川の様子

1.6 履行期間

自 令和2年9月24日

至 令和3年11月1日

2 調査方法

2.1 植物調査

2.1.1 植物相調査

調査範囲を踏査し、生育している維管束植物を記録した。重要種が確認された場合には、確認位置及び個体数等を記録した。現地で種の同定が困難な場合には、植物体を採取して持ち帰り、同定を行った。調査は早春、春季、夏季、秋季の4回とした。

2.1.2 植物群落調査

植物群落の均質な部分にコドラートを設定し、植物社会学的方法に従って被度・群度等を記録した。調査結果は、群落組成表として整理するとともに、断面模式図を作成した。コドラートは樹林地、草地等あわせて7箇所とし、調査は夏季の1回とした。

2.1.3 植生図作成

航空写真等の判読に基づく植生図の下図と現地の植生を照らし合わせ植生図を作成した。縮尺は1/2,500~1/5,000程度とし、調査は夏季の1回とした。

2.2 動物調査

2.2.1 哺乳類調査

哺乳類調査はフィールドサイン法、トラップ法のほか、任意に無人撮影機による調査を行った。各調査方法は、以下に示すとおりである。調査は春季、秋季の2回とした。

① フィールドサイン法

調査範囲を任意踏査し、哺乳類の痕跡（足跡、糞、食痕等）を地図上に記録するとともに、可能な限り写真撮影を行った。重要種が確認された場合には、確認位置及び確認データ（確認日・確認方法・個体数等）を記録した。

② トラップ法

シャーマントラップを用い、小型哺乳類（ネズミ類）を捕獲した。内部に誘引用の餌を入れたシャーマントラップを1地点10個設置し、翌日に回収を行った。捕獲された場合は、種の同定に必要な部位の測定及び代表個体の撮影を行った。回収時に死亡していた個体は現地に埋設した。

調査地点は2地点とし、設置を行う際には、設置を行っている旨を示した看板を設置し、周知を行った。

③ 無人撮影

春季の調査では、上記調査を補足するため無人撮影を行った。哺乳類の痕跡や獣道等を探し、比較的撮影しやすい地点に無人撮影装置（センサーカメラ）を設置した。撮影期間は1晩とし、哺乳類が撮影された場合は、種名、撮影日時、個体数等を記録した。

	<p>シャーマントラップ</p> <ul style="list-style-type: none">・アルミ製の箱罠・罠の大きさ（2種類） <p>大：入り口 8cm×9cm、奥行き 23cm 小：入り口 5cm×6cm、奥行き 15cm</p>
	<p>無人撮影機</p> 

写真 3-1 哺乳類調査に用いた機材

2.2.2 鳥類調査

鳥類調査はラインセンサス法・定点観察及び任意観察を行った。各調査方法は、以下に示すとおりである。調査は春季、夏季、冬季の3回とした。

① ラインセンサス法・定点観察

事前に選定したルート上を歩き、ルート上のおおむね片側 25mの範囲内に出現した鳥類の位置・確認状況・個体数等を記録するとともに、確認された種は可能な限り写真撮影を行った。

定点観察は1地点 30分間とどまって観察される鳥類を記録する。調査には8倍程度の双眼鏡または20～60倍程度の望遠鏡を用いた。

調査は鳥類の活動が活発な早朝から午前中に実施した。

② 任意観察

調査範囲内を任意踏査し、出現した鳥類を記録する。重要種が確認された場合には、確認位置及び確認データ（確認日・確認方法・個体数等）を記録するとともに、可能な限り写真撮影を行う。

なお、鳥類調査以外の調査時に新たな種が観察された場合も含めて調査結果を整理した。

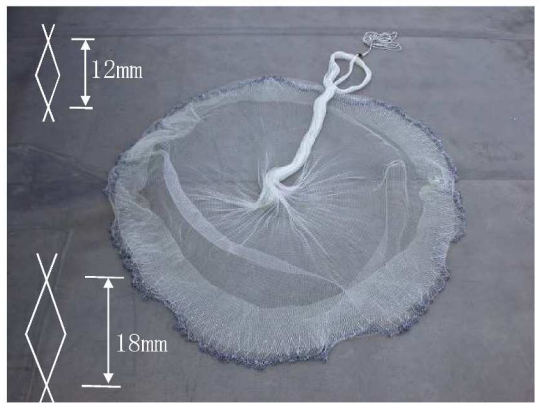
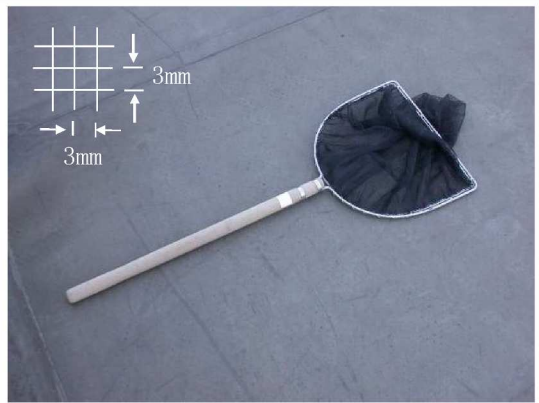
2.2.3 両生類・爬虫類調査

調査範囲を踏査し、目視観察により両生類・爬虫類を探索し、確認された場合は確認位置等を地図上に記録するとともに、可能な限り写真撮影を行った。調査は春季、夏季の2回としたが、秋季の哺乳類調査時に確認された両生類・爬虫類についても同様に記録した。

2.2.4 魚類調査

調査範囲の水域に生息する魚類を把握するため投網、タモ網による魚類の採捕調査を行った。調査は、野川は調査範囲の上流側と下流側の2地点と自然再生事業実施地内の池、水路とした。調査に用いた漁具は投網とタモ網で、投網の目合い12mmと18mmである。採捕された魚類は、種、個体数、体長区分等を記録し、種ごとに写真撮影を行って現地に放流した。また、一般観測として天候、気温、水温等を記録した。調査は夏季の1回とした。

採捕に用いた漁具

	
<p>【投網】2 統（裾周 16m・目合い 18mm、裾周 11.3m・目合い 12mm）</p>	<p>【タモ網】2 本（縦 34cm、幅 36cm、目合い 3mm）</p>

2.2.5 昆虫類調査

昆虫類調査は、一般採集・直接観察のほかライトトラップ法及びベイトトラップ法を用いた。調査は春季、夏季の2回とした。各調査方法は、以下に示すとおりである。

① 一般採集・直接観察（ビーティング法、スウィーピング法等）

調査範囲を任意に踏査し、樹林地や林縁部等の環境を対象として捕虫網等を用い昆虫類を採集した。重要種が確認された場合には、確認位置及び確認データ（確認日・確認方法・個体数等）を記録した。



図 3-2 昆虫類調査イメージ

② ライトトラップ法

集光性昆虫類を対象にライトトラップによる採集を行った。ライトトラップはボックス法（光源の下に大型ロート部と昆虫収納ボックスを取り付けたもの）とし、1箇所につき1個を1晩設置した。調査地点は2箇所とした。



図 3-3 ライトトラップの設置イメージ

③ ベイトトラップ法

徘徊性昆虫類を対象にベイトトラップを設置し、採集を行った。ベイトトラップは、プラスチック等のコップを用いて中に誘引餌（ベイト）を入れ、コップの縁が地表面と同等の高さになるように地中に埋め、中に落ちた昆虫類を採取する手法である。コップは1箇所あたり10個で1晩設置した。調査地点は2箇所とした。



図 3-4 ベイトトラップ



2.2.6 底生動物調査

調査範囲内の野川及び隣接する自然再生事業地の水域について底生動物の調査を行った。調査方法は、タモ網等による定性採集と野川についてはコドラートによる定量採集を行った。採集した底生動物は持ち帰り室内分析を行った。調査は春季の1回とした。



図 3-5 底生動物調査のイメージ

採集に用いた器具

	
<p>【Dフレームネット】1本（縦 34cm、幅 36cm、目合い 0.493mm）</p>	<p>【サーバーネット】1本（25cm×25cm、目合い 0.493mm）</p>

2.3 重要種の選定基準

重要な種(重要種)の選定基準は以下のとおり、法令と絶滅のおそれのある種に関する資料に基づくものとした。

表 2.3-1 重要な種の選定基準

No.	略称	選定基準
①	文化財保護法	「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）により国、東京都、府中市、小金井市等の天然記念物、特別天然記念物に指定されているもの
②	種の保存法	「絶滅のおそれのある野生生物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）による国内希少野生動植物種、特定第一種国内希少野生動植物種、特定第二種国内希少野生動植物種
③	環境省 2020	「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年 環境省）の掲載種
④	東京都 2020	「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）-東京都レッドリスト（本土部）2020 年版」（令和 3 年 東京都環境局）の掲載種で「北多摩」「多摩部」の該当種

表 2.3-2 に各選定基準での区分(カテゴリー)とその概要を示す。

表 2.3-2 重要種の区分の概要

選定基準	区分	略号	概要	
文化財保護法 ・各自治体の 文化財保護条 例	天然記念物	天然	文化財のうち、動物、植物で我が国にとって学術上価値の高いもの。地域を定めずに種で指定されているものが該当する。現状を変更し、あるいはその保存に影響を及ぼす行為をしようとする場合、文化財保護法により、文化庁長官の許可を要することとされている。自治体の条例もこれに準じる。	
	特別天然記念物	特天	天然記念物のうち、とくに重要なもの。	
種の保存法	国内希少野生動植物種	国内	国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種(または亜種・変種)。レッドリストの絶滅危惧種(CR, EN, VU)から法令で指定される。捕獲や売買、譲渡などが禁止されている。	
	特定第一種国内希少野生動植物種	特一	国内希少野生動植物種のうち、商業的に個体の繁殖をさせることができる種。人工繁殖個体は、届け出を行い売買等ができる(野生のものは捕獲禁止)。	
	特定第一種国内希少野生動植物種	特二	国内希少野生動植物種のうち、里山など身近に生息・生育するもので個体数が比較的多く、個体数の回復の見込めるもの。販売等の目的での捕獲は禁止されているが、それ以外の目的では捕獲等できる。	
レッドリスト・ レッドデータ ブック(環境 省・東京都)	絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	
	野生絶滅	EW	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種	
	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IA 類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
		絶滅危惧 IB 類	EN	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
	絶滅危惧 II 類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	
	準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	
	情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種	
	絶滅のおそれのある地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。	
	留意種	*	準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に個体数が少なく容易に減少することがあり得る種。東京都レッドリストで採用されている区分。	

3 植物調査結果

3.1 植物相調査

(1) 現地調査結果

植物相調査は、秋季は令和2年11月4日、早春季は令和3年3月17日、春季は4月27日、夏季は7月2日に実施した。また、植物群落調査(7月20日実施)で記録された植物についても植物相調査結果の一部として取り扱った。

調査の結果、111科493種の植物が確認された。このうち原産地が国内である在来種は329種で約3分の2である66.9%を占め、原産地が海外である外来種は149種で30.2%、園芸品種などで栽培される品種(不明を含む)は15種、3.0%となっている。また、自生状態で生育しているものは376種で76.1%、植栽されたことが明らかなものは118種で23.9%となっている。

表 3.1-1(1) 確認された植物種数

門	亜門	綱	科	種
シダ植物			7	15
種子植物	裸子植物		3	8
		被子植物		
		モクレン類	6	13
		単子葉植物	16	119
		双子葉植物	79	338
			111	493

※:分類は「BG Plants 和名-学名インデックス」APG III,による

表 3.1-1(2) 在来種・外来種等の区分別種数

区分	種数(種)	割合(%)	備考
在来種	329	66.7	原産地が国内
外来種	149	30.2	原産地が海外
栽培品種等	15	3.0	園芸品種など
計	493	100	

※:外来種の判定基準は国立環境研究所,侵入生物データベース等による

表 3.1-1(3) 自生・植栽別の種数

区分	種数(種)	割合(%)	備考
自生	375	76.1	自生状態のもの
植栽	118	23.9	植栽されたもの
計	493	100	

※:同一種で自生と植栽双方がみられるものは自生とした。

(2) 重要種

重要種は9種が確認された。ナツノハナワラビは夏季に 〇〇〇〇〇〇で5株が確認され、生育状況は良好であった。キンランは、春季に 〇〇〇〇〇〇で16株が確認されたほか、 〇〇〇〇〇〇でも6株が確認された。いずれも開花個体であり生育状況は良好であった。ササバギンランも春季の調査で確認されたが、キンランよりも少なく 〇〇〇〇〇〇で開花個体1株が確認されたのみである。ミクリは春季の調査時に 〇〇〇〇〇〇で数多く確認され、夏季に花・果実を形成していた。ウキヤガラは、早春季以外の調査で 〇〇〇〇〇〇と 〇〇〇〇〇〇で多数が確認され、群落状に生育していた。多数の株が開花しており生育状況は良好であった。ミコシガヤは、夏季に 〇〇〇〇〇〇で開花個体1株が確認されたが、後日の草刈りで消失していた。ニリンソウは早春季の調査で、 〇〇〇〇〇〇で確認された。生育個体数は約30株であるが、生育範囲は約1m²と小規模であった。カワヂシャは夏季に 〇〇〇〇〇〇で5株が確認され、生育状況は良好であった。

表 3.1-2 秋季・早春季・春季・夏季調査で確認された重要種

種	重要種			
	種の保存法	文化財保護法	環境省2020	東京都2020
ナツノハナワラビ				VU
キンラン			VU	NT
ササバギンラン				NT
ノカンゾウ				NT
ミクリ			NT	NT
ウキヤガラ				VU
ミコシガヤ				NT
ニリンソウ				NT
カワヂシャ			NT	VU
計			3種	9種


表 3.1-3(1) 植物の重要種(1)

	ナツノハナワラビ	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
	生態等	夏緑性のシダ植物。高さ 25~70cm ほどになる。全長 90cm。北海道から九州までの山地の森林内に生育する。
	確認状況	7月に植物群落調査で確認された。生育状況は良好であった。
	キンラン	
	環境省レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU) 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	ラン科の多年草で山地、丘陵地の林内に生育する。高さ 30~70cm の茎に 4~6 月に鮮やかな黄色の花をつける。
	確認状況	春季に主に で確認されたが、 などでも生育している。生育状況は良好であった。
	ササバギンラン	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
		ラン科の多年草で山地、丘陵地の林内に生育する。高さ 30~50cm ほどの茎に 4~6 月に白色の穂状の花をつける。
	確認状況	春季に で確認された。生育状況は良好であったが株数は多くない。
	ノカンゾウ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	本州以南の土手や野原にはえる高さ 50~70cm の多年草。7~8 月に橙赤色の花をつける。
	確認状況	夏季に の草地で多数が確認された。生育状況は良好であった。

表 3.1-3(2) 植物の重要種(2)

	ミクリ 環境省レッドリスト 準絶滅危惧 (NT) 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	多年生の抽水植物。草丈は2mになることもある。6~9月ごろに栗のイガに似た実をつける。
	確認状況	春季、夏季に で多数が確認された。生育状況は良好であった。
	ウキヤガラ 東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
	生態等	北海道から九州までの池や河川の水辺、湿地、休耕田などに生える多年草の抽水植物。高さ1.5mほどになる。夏季に1-2cmほどの穂をつける。
	確認状況	今回の調査では や など多数が確認された。生育状況は良好であった。
	ミコシガヤ 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	本州に分布するが局地的とされる。河川敷など湿った草地に生育する。多年生で5~7月に丸い穂状の花をつける。
	確認状況	夏季に で1株が確認された。生育状況は良好であったが、その後の草刈で見当たらなくなった。
	ニリンソウ 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	北海道から九州の山地、丘陵地の林床に生育する多年草。3~5月に白い花を2輪つける。
	確認状況	早春季に で小規模な群落状で確認された。生育状況は良好であった。

表 3.1-3(3) 植物の重要種(3)

	カワヂシャ	
	環境省レッドリスト 準絶滅危惧 (NT) 東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
	生態等	越年生の抽水植物。草丈は 10-100cm ほど。5～6 月に小型の白い花をつける。
	確認状況	夏季に で 5 株が確認された。開花しており、生育状況は良好であった。

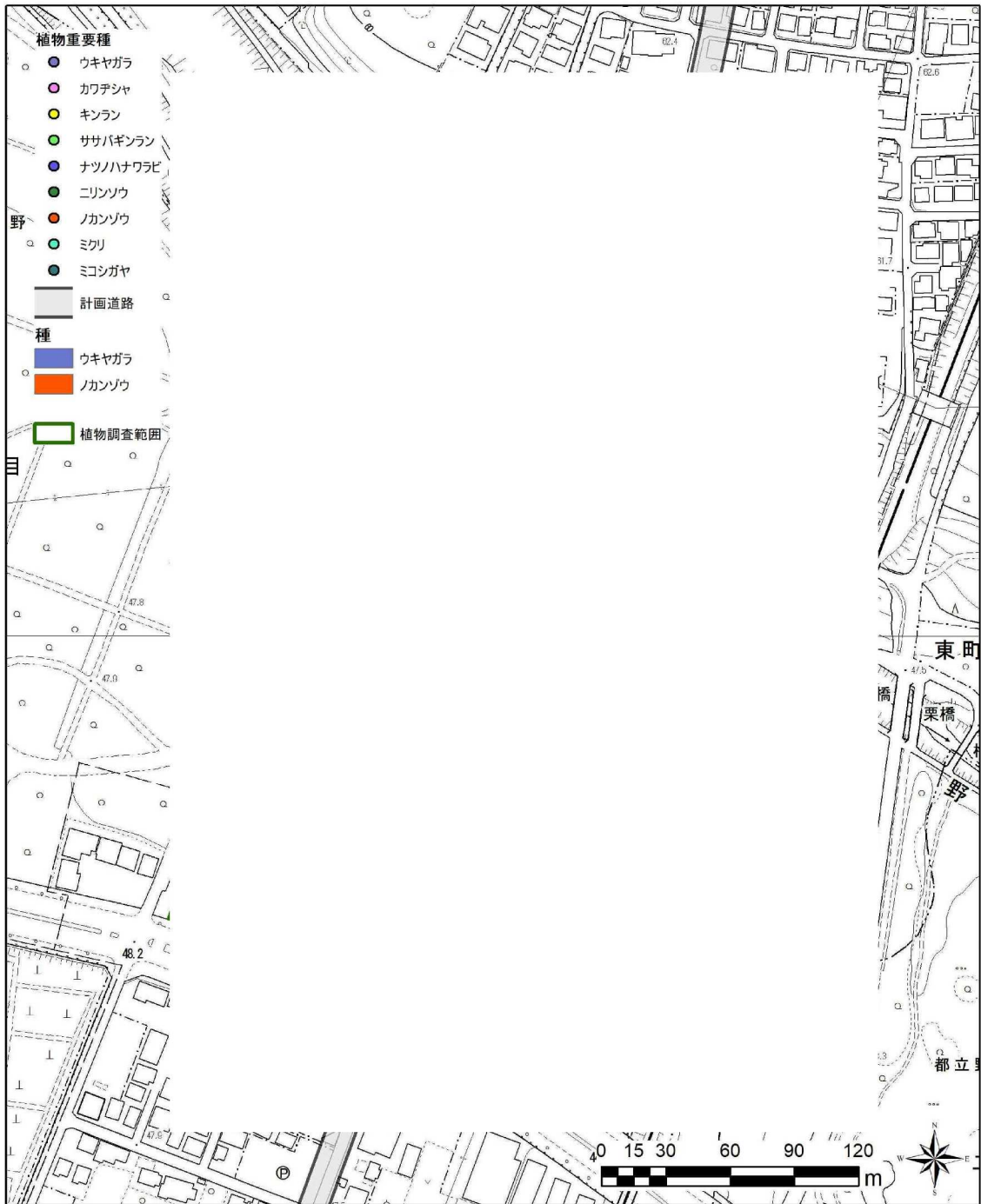


表 3.1-2 植物重要種位置

表 3.1-4(1) 植物確認種一覧(1)

No.	科名	和名	秋季	早春季	春季	夏季	植生調査	重要種		外来生物法	区分
			R2. 11. 4	R3. 3. 17	R3. 4. 27	R3. 7. 2	R3. 7. 20	環境省 2020	東京都 2020		
1	トクサ	スギナ	●	●	●	●	●				在来・自生
2	ハナヤスリ	オオハナワラビ	●								在来・自生
3		ナツノハナワラビ					●			VU	在来・自生
4	カニクサ	カニクサ	●	●		●					在来・自生
5	メシダ	イヌワラビ	●	●	●	●	●				在来・自生
6		シケシダ	●		●	●					在来・自生
7		フモトシケシダ			●						在来・自生
8	ヒメシダ	ホシダ	●		●	●					在来・自生
9		ガシゲシダ	●								在来・自生
10		ヒメワラビ	●								在来・自生
11		ミドリヒメワラビ			●	●	●				在来・自生
12	オシダ	ヤブソデツ	●	●							在来・自生
13		ベニシダ	●	●	●	●	●				在来・自生
14	ウラボシ	ヒメノキシノブ	●								在来・自生
15		ノキシノブ	●	●		●					在来・自生
16	イチヨウ	イチヨウ	●								外来・植栽
17	マツ	モミ	●	●	●						在来・植栽
18		ドイトウトウヒ	●				●				外来・植栽
19		アカマツ	●	●	●		●				在来・植栽
20		クロマツ	●		●	●					在来・植栽
21	ヒノキ	ヒノキ	●		●	●	●				在来・植栽
22		サワラ	●	●		●					在来・植栽
23		スギ				●	●				在来・植栽
24	マツバサ	サネカズラ	●	●	●	●	●				在来・自生
25	ドクダミ	ドクダミ	●	●	●	●	●				在来・自生
26	モクレン	ユリノキ	●		●	●	●				外来・植栽
27		コブシ	●	●	●	●					在来・植栽
28		ホオノキ	●			●					在来・植栽
29		オオヤマレンゲ	●	●							在来・植栽
30		モクレン属の一種	●				●				不明・植栽
31	ロウバイ	ロウバイ	●			●					外来・植栽
32	クスノキ	クスノキ	●	●		●					在来・植栽
33		タブノキ	●	●		●	●				在来・自生
34		シロダモ			●						在来・自生
35	センリョウ	フタリシズカ	●				●				在来・自生
36		センリョウ	●								在来・自生
37	ショウブ	セキショウ	●	●	●	●					在来・植栽
38	サトイモ	ウラシマソウ			●	●					在来・自生
39		カラスビシャク	●		●						在来・自生
40	ヤマノイモ	ヤマノイモ	●				●				在来・自生
41		ナガイモ				●	●				外来・自生
42		オニドコロ	●		●	●	●				在来・自生
43	イヌサフラン	ホウチャクソウ			●	●	●				在来・自生
44	サルトリイバラ	サルトリイバラ	●		●	●	●				在来・自生
45		シオデ				●	●				在来・自生
46	ラン	キンラン	●		●				VU	NT	在来・自生
47		ササバギンラン			●					NT	在来・自生
48		ネジバナ				●					在来・自生
49	アヤメ	ヒメヒオウギズイセン			●	●	●				外来・自生
50		キショウブ	●		●	●	●				外来・自生
51		オオニワゼキショウ			●						外来・自生
52	ワスレグサ	ノカンゾウ			●	●				NT	在来・自生
53		ヤブカンゾウ	●	●	●	●	●				外来・自生
54	ヒガンバナ	ノビル	●		●						在来・自生
55		ニラ	●								外来・自生
56		スノードロップ		●	●						外来・自生
57		ハナニラ		●	●						外来・自生
58		ヒガンバナ	●	●	●						外来・植栽
59		スイセン	●	●	●						外来・植栽
60	クサスギカズラ	ツルボ	●		●						在来・自生
61		ツリガネズイセン			●						外来・自生
62		ヒメヤブラン	●		●	●	●				在来・植栽
63		ヤブラン	●	●	●	●	●				在来・自生
64		ムスカリ		●	●						外来・植栽
65		ジャノヒゲ	●	●	●	●	●				在来・自生
66		カブダチジャノヒゲ	●				●				在来・自生
67		ナガバジャノヒゲ		●	●	●	●				在来・自生
68		ホソバオオアマナ			●						外来・自生
69		キチジョウソウ	●	●							在来・自生
70		アツバキミガヨラン		●							外来・自生
71	ヤシ	シユロ	●		●	●	●				外来・自生
72	ツユクサ	マルバツユクサ	●								在来・自生
73		ツユクサ	●		●	●					在来・自生
74		ヤブミョウガ	●								在来・自生
75		ノハカタカラクサ		●	●						外来・自生
76		ミドリハカタカラクサ	●								外来・自生
77	ガマ	ミクリ			●	●	●		NT	NT	在来・自生
78		ヒメガマ	●	●			●				在来・自生
79	イグサ	ユゴメイ	●		●	●					外来・自生
80		クサイ	●		●	●					外来・自生
81		スズメノヒエ	●		●	●					在来・自生
82		スズメノヤリ	●	●	●	●					在来・自生
83	カヤツリグサ	ウキヤガラ	●		●	●	●			VU	在来・自生
84		シラスゲ	●		●	●					在来・自生
85		ヒメカンスゲ		●	●	●					在来・自生
86		アゼナルコ			●	●					在来・自生
87		マスクサ			●	●					在来・自生
88		カワラスゲ		●							在来・自生
89		ヒコクサ			●	●					在来・自生
90		ヒカゲスゲ		●	●						在来・自生

表 3.1-4(2) 植物確認種一覧(2)

No.	科名	和名	秋季	早春	春季	夏季	植生調査	重要種		外来生物法	区分
			R2. 11. 4	R3. 3. 17	R3. 4. 27	R3. 7. 2	R3. 7. 20	環境省 2020	東京都 2020		
91		ナキリスゲ		●	●	●	●				在来・自生
92		アオスゲ			●						在来・自生
93		オオアオスゲ			●						在来・自生
94		ノゲスカサゲ		●	●						在来・自生
95		ミコシガヤ				●			NT		在来・自生
96		コジュズスゲ			●						在来・自生
97		ヤブスゲ			●	●					在来・自生
98		ヤワラスゲ			●						在来・自生
99		ヒメクグ	●				●				在来・自生
100		メリケンガヤツリ	●			●					外来・自生
101		コゴメガヤツリ	●								在来・自生
102		カヤツリグサ	●								在来・自生
103		フトイ			●						在来・自生
104		サンカクイ				●					在来・自生
105	イネ	メリケンカルカヤ	●		●						外来・自生
106		ハルガヤ			●						外来・自生
107		トダシバ	●								在来・自生
108		カラスムギ			●						外来・自生
109		イヌムギ	●	●	●	●					外来・自生
110		ジュズダマ	●								外来・自生
111		ギョウギシバ	●			●					在来・自生
112		メヒシバ	●				●				在来・自生
113		コメヒシバ	●								在来・自生
114		アキメヒシバ	●								在来・自生
115		イヌビエ	●					●			在来・自生
116		オヒシバ	●					●			在来・自生
117		アオカモジグサ			●						在来・自生
118		カゼクサ	●			●					在来・自生
119		トボシガラ			●						在来・自生
120		ムギクサ			●						外来・自生
121		チガヤ	●		●						在来・自生
122		ササガヤ	●			●	●				在来・自生
123		オニウシノケグサ		●		●	●				外来・自生
124		ネズミムギ			●	●					外来・自生
125		ホソムギ			●						外来・自生
126		アシボソ	●			●	●				在来・自生
127		ヒメアシボソ	●								在来・自生
128		オギ	●		●	●	●				在来・自生
129		ススキ	●		●	●	●				在来・自生
130		コネズミガヤ	●			●	●				外来・自生
131		ケチヂミザサ	●				●				在来・自生
132		コチヂミザサ			●		●				在来・自生
133		ヌカキビ	●								在来・自生
134		オオクサキビ	●								外来・自生
135		シマスズメノヒエ				●					外来・自生
136		チカラシバ	●								在来・自生
137		クサヨシ	●	●	●	●					在来・自生
138		ヨシ	●		●	●					在来・自生
139		モウソウチク	●	●	●	●					外来・植栽
140		マダケ	●	●	●	●					外来・植栽
141		アズマネザサ	●	●	●	●	●				在来・自生
142		ミゾイチゴツナギ			●	●					在来・自生
143		スズメノカタビラ		●	●	●					在来・自生
144		ナガハグサ			●						外来・自生
145		オオスズメノカタビラ			●						外来・自生
146		クマザサ	●		●		●				在来・植栽
147		アキノエノコログサ	●								在来・自生
148		コツブキンエノコロ	●								在来・自生
149		キンエノコロ	●								在来・自生
150		エノコログサ	●			●					在来・自生
151		ムラサキエノコロ	●								在来・自生
152		オカメザサ	●	●							外来・植栽
153		セイバンモロコシ	●			●					外来・自生
154		ネズミノオ	●								在来・自生
155		シバ	●		●	●	●				在来・自生
156	ケシ	ムラサキケマン	●			●	●				在来・自生
157		タケニグサ	●		●	●	●				在来・自生
158		ナガミヒナゲシ			●	●	●				外来・自生
159	アケビ	アケビ	●	●	●	●	●				在来・自生
160		ミツバアケビ	●		●	●					在来・自生
161	ツツラフジ	アオツツラフジ	●		●	●					在来・自生
162	メギ	ホソバヒイラギナンテン		●							外来・自生
163		ヒイラギナンテン	●		●	●					外来・植栽
164		ナンテン	●	●	●	●	●				外来・植栽
165	キンボウゲ	ニリンソウ		●					NT		在来・自生
166		コボタンヅル		●							在来・自生
167		センニンソウ	●	●	●		●				在来・自生
168		セリバヒエンソウ			●						外来・自生
169		ヒメリュウキンカ		●							外来・自生
170		クリスマスローズ				●					外来・植栽
171		ケイツネノボタン	●	●	●	●					在来・自生
172	スズカケノキ	アメリカスズカケノキ	●				●				外来・植栽
173	マンサク	ヒュウガミズキ	●	●			●			(EN)	在来・植栽
174		トキワマンサク		●							在来・植栽
175		ベニバナトキワマンサク	●			●					外来・植栽
176	ユズリハ	ユズリハ	●	●		●					在来・植栽
177		ユキノシタ		●							在来・植栽
178		ペンケイソウ		●							在来・自生
179	ブドウ	ノブドウ	●		●	●	●				在来・自生
180		ヤブカラシ	●	●	●	●	●				在来・自生

表 3.1-4(3) 植物確認種一覽(3)

No.	科名	和名	秋季	早春季	春季	夏季	植生調査	重要種		外来生物法	区分
			R2.11.4	R3.3.17	R3.4.27	R3.7.2	R3.7.20	環境省 2020	東京都 2020		
181		ツタ	●		●	●	●				在来・自生
182		エビヅル	●			●					在来・自生
183	マメ	ネムノキ	●								在来・自生
184		ヤブマメ	●		●	●	●				在来・自生
185		アレチヌスビトハギ	●				●				外来・自生
186		ツルマメ	●			●	●				在来・自生
187		ヌスビトハギ			●	●					在来・自生
188		ヤブハギ	●								在来・自生
189		マルバヤハズソウ	●								在来・自生
190		ヤハズソウ	●			●	●				在来・自生
191		ヤマハギ					●				在来・自生
192		メドハギ	●		●	●	●				在来・自生
193		ネコハギ									在来・自生
194		クズ	●		●	●					在来・自生
195		ハリエンジュ	●		●	●	●				外来・自生
196		エンジュ	●				●				外来・自生
197		コメツブツメクサ			●		●				外来・自生
198		ムラサキツメクサ	●	●	●	●					外来・自生
199		シロツメクサ	●	●	●	●	●				外来・自生
200		スズメノエンドウ	●								在来・自生
201		ヤハズエンドウ	●	●	●	●					在来・自生
202		カスマグサ	●								在来・自生
203	バラ	キンミズヒキ	●	●	●	●	●				在来・自生
204		カンヒザクラ		●							在来・植栽
205		ヤマザクラ	●	●	●	●					在来・植栽
206		サトザクラ	●								栽培・植栽
207		カワザクラ		●							栽培・植栽
208		ソメイヨシノ	●								栽培・植栽
209		ザクラ類					●				在来・植栽
210		ボケ	●								栽培・植栽
211		ビワ	●				●				外来・自生
212		ダイコンソウ	●								在来・自生
213		ヤマブキ	●	●	●	●					在来・植栽
214		ヤマブキ類					●				不明・植栽
215		ウロミズザクラ	●		●	●					在来・植栽
216		カナメモチ		●	●	●					在来・自生
217		レッドロビン	●								栽培・植栽
218		オヘイイチゴ	●	●	●	●					在来・自生
219		ミツバツチグリ	●	●	●	●					在来・自生
220		ヘイイチゴ	●	●	●	●					在来・自生
221		ヤブヘイイチゴ	●	●	●	●					在来・自生
222		ウメ	●	●	●	●					外来・植栽
223		モモ(ハナモモ)	●			●					栽培・植栽
224		ユスラウメ		●							外来・植栽
225		トキワサンザシ属の一種	●								外来・植栽
226		ジャリンバイ		●			●				在来・植栽
227		シロヤマブキ	●					(DN)			在来・植栽
228		ノイバラ	●	●	●	●	●				在来・自生
229		クサイチゴ	●	●	●	●					在来・自生
230		ナワシロイチゴ	●		●	●	●				在来・自生
231		コデマリ	●								在来・植栽
232		ユキヤナギ	●	●	●	●	●				外来・植栽
233	グミ	ツルグミ			●						在来・自生
234		ナワシログミ	●				●				在来・植栽
235	ニレ	アキニレ	●		●	●	●				在来・植栽
236		ケヤキ	●	●	●	●	●				在来・植栽
237	アサ	ムクノキ	●		●	●	●				在来・自生
238		エノキ	●		●	●	●				在来・植栽
239		カナムグラ	●			●	●				在来・自生
240	クワ	ヒメコウゾ	●		●	●	●				在来・自生
241		カジノキ			●	●					在来・自生
242		マダロ	●			●					外来・自生
243		ヤマダロ			●		●				在来・自生
244	イラクサ	ヤブマオ	●			●					在来・自生
245		カラムシ	●								在来・自生
246		メヤブマオ	●								在来・自生
247		アカツ	●								在来・自生
248	ブナ	クリ	●	●							在来・植栽
249		スタジイ	●				●				在来・植栽
250		マテバシイ	●	●							在来・植栽
251		クスギ	●	●	●	●	●				在来・植栽
252		アラカシ		●	●	●					在来・自生
253		シラカシ	●	●	●	●					在来・植栽
254		ウバメガシ	●		●	●					在来・植栽
255		コナラ	●	●	●	●	●				在来・植栽
256	ヤマモモ	ヤマモモ	●	●							在来・植栽
257	カバノキ	アカシデ	●		●	●					在来・植栽
258		イヌシデ	●	●		●					在来・植栽
259	ウリ	アレチウリ	●		●	●					外来・自生
260		カラスウリ	●	●	●	●	●				在来・自生
261		スズメウリ	●				●				在来・自生
262	ニシキギ	ツルウメモドキ	●		●	●	●				在来・自生
263		マサキ	●	●							在来・植栽
264		マユミ	●		●	●					在来・植栽
265		カントウマユミ	●								在来・自生
266	カタバミ	イモカタバミ		●	●						外来・自生
267		ベニカタバミ		●	●						外来・自生
268		カタバミ	●	●	●	●	●				在来・自生
269		ウスアカカタバミ	●								在来・自生
270		ムラサキカタバミ	●								外来・自生

表 3.1-4(4) 植物確認種一覧(4)

No.	科名	和名	秋季	早春季	春季	夏季	植生調査	重要種		外来生物法	区分
			R2.11.4	R3.3.17	R3.4.27	R3.7.2	R3.7.20	環境省 2020	東京都 2020		
271		オウタチカタバミ			●	●					外来・自生
272		フユカタバミ	●								外来・自生
273		サンカクカタバミ	●		●						外来・自生
274	オトギリソウ	ビヨウヤナギ		●							外来・植栽
275	スミレ	タチツボスミレ	●	●	●	●	●				在来・自生
276		コスミレ	●								在来・自生
277		マルバスミレ			●	●	●				在来・自生
278		アメリカスミレサイシン	●				●				外来・自生
279		ツボスミレ			●						在来・自生
280	ヤナギ	アカメヤナギ			●						在来・自生
281		マルバヤナギ	●								在来・自生
282		ネコヤナギ		●	●	●					在来・自生
283		タチヤナギ		●	●	●					在来・自生
284	トウダイグサ	エノキグサ	●				●				在来・自生
285		コニシキソウ	●								外来・自生
286		オオニシキソウ	●								外来・自生
287		アカメガシラ		●	●	●	●				在来・自生
288		ナンキンハゼ				●					外来・自生
289	コミカンソウ	コミカンソウ	●								在来・自生
290	フクロソウ	アメリカフクロ	●	●	●		●				外来・自生
291		ガンノショウコ	●				●				在来・自生
292	ミソハギ	サルスベリ	●		●						外来・自生
293	アカバナ	ヌマツヨイグサ	●		●	●					外来・自生
294		ユウゲショウ	●								外来・自生
295	ミツバウツギ	ゴズイ	●								在来・自生
296	ウルシ	ヌルデ	●								在来・自生
297		ヤマウルシ	●								在来・自生
298	ムクロジ	トウカエデ	●	●	●	●					外来・植栽
299		イロハモミジ	●	●	●	●	●				在来・植栽
300		トチノキ					●				在来・自生
301	ミカン	キハダ	●	●					(DD)		在来・植栽
302		サンショウ	●		●	●	●				在来・植栽
303	ニガキ	ニワウルシ	●				●				外来・自生
304	センダン	センダン	●		●	●	●				在来・植栽
305	アオイ	ムクゲ	●		●	●					外来・植栽
306	アブラナ	セイヨウアブラナ		●							外来・自生
307		ナズナ		●	●						在来・自生
308		ミチタネツケバナ		●	●						外来・自生
309		マメグンバイナズナ				●					外来・自生
310		オランダガラシ	●	●	●						外来・自生
311		ショカツサイ	●	●	●	●					外来・自生
312		イヌガラシ	●		●	●					在来・自生
313		スカシタゴボウ				●					在来・自生
314		カキネガラシ			●						外来・自生
315	タデ	イタドリ			●	●					在来・自生
316		ミズヒキ	●		●	●	●				在来・自生
317		オオイヌタデ	●				●				在来・自生
318		イヌタデ				●					在来・自生
319		イシミカワ	●				●				在来・自生
320		ハナタデ	●								在来・自生
321		ボントクタデ	●								在来・自生
322		ミゾソバ	●	●	●	●	●				在来・自生
323		スイバ	●		●						在来・自生
324		アレチギシギシ	●	●	●	●					外来・自生
325		ナガバギシギシ		●	●	●					外来・自生
326		ギシギシ		●	●	●					在来・自生
327		エツノギシギシ		●	●	●					外来・自生
328	ナデシコ	ノミノツツリ			●						在来・自生
329		オランダミミナグサ		●	●	●					外来・自生
330		ツメクサ	●	●							在来・自生
331		ウシハコベ	●		●						在来・自生
332		コハコベ	●	●	●						外来・自生
333		ミドリハコベ	●	●	●						在来・自生
334	ヒユ	イノコヅチ	●								在来・自生
335		ヒカゲイノコヅチ				●					在来・自生
336		ヒコタイノコヅチ	●		●	●	●				在来・自生
337		シロザ	●			●					外来・自生
338	ハマミズナ	マツバギク	●								外来・自生
339	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	●		●	●					外来・自生
340	オシロイバナ	オシロイバナ	●			●					外来・自生
341	ハゼラン	ハゼラン	●			●					外来・自生
342	アジサイ	ウツギ	●		●		●				在来・自生
343	アジサイ	アメリカノリノキ				●					外来・自生
344		セイヨウアジサイ	●								外来・植栽
345		アジサイ		●	●	●					在来・植栽
346		ガクアジサイ	●			●					在来・植栽
347	ミズキ	ミズキ		●		●	●				在来・植栽
348		アメリカヤマボウシ	●								外来・植栽
349		ヤマボウシ	●		●	●	●				在来・植栽
350		クマノミズキ	●		●						在来・植栽
351		サンシュユ	●	●		●					外来・植栽
352	サカキ	サカキ					●				在来・自生
353		ハマヒサカキ	●		●	●					在来・植栽
354		ヒサカキ	●	●	●	●	●				在来・植栽
355	カキノキ	カキノキ	●	●	●	●	●				外来・植栽
356	サクラソウ	マンリョウ	●	●	●	●	●				在来・自生
357		コナスビ	●		●	●					在来・自生
358	ツバキ	ヤブツバキ		●	●	●	●				在来・植栽
359		ツバキ類					●				在来・植栽
360		サザンカ	●								在来・植栽

表 3.1-4(5) 植物確認種一覧(5)

No.	科名	和名	秋季	早春季	春季	夏季	植生調査	重要種		外来生物法	区分
			R2. 11. 4	R3. 3. 17	R3. 4. 27	R3. 7. 2	R3. 7. 20	環境省 2020	東京都 2020		
361		ヒメツバキ	●	●			●				在来・植栽
362		ヒメシャラ		●		●					在来・植栽
363		サワフタギ	●		●						在来・植栽
364	エイノキ	エイノキ	●	●	●	●	●				在来・植栽
365		ハクウンボク	●				●				在来・植栽
366	マダタビ	オニマダタビ			●						外来・自生
367		キウイフルーツ	●								外来・植栽
368	ツツジ	ドウダンツツジ	●								在来・植栽
369		アセビ	●	●		●	●				在来・植栽
370		ジャクナゲ属の一種	●								不明・植栽
371		マルバサツキ		●							在来・植栽
372		サツキ	●			●					在来・植栽
373		クルメツツジ	●		●						栽培・植栽
374		ヒラドツツジ	●								栽培・植栽
375		オオムラサキ			●						栽培・植栽
376		ブルーベリー	●								栽培・植栽
377	アオキ	アオキ	●	●	●		●				在来・植栽
378	アカネ	ヒメヨツバムグラ			●						在来・自生
379		ヤエムグラ	●	●	●						在来・自生
380		クチナシ	●	●							在来・植栽
381		ハシカダサ				●					在来・自生
382		ヘクソカズラ	●		●	●	●				在来・自生
383		ハクチョウゲ	●					(EN)			在来・植栽
384		ハナヤエムグラ		●	●	●					外来・自生
385	キョウチクトウ	カガイモ	●				●				在来・自生
386		ナイカズラ	●	●	●	●	●				在来・自生
387		ツルニチニチソウ			●	●					外来・自生
388	ムラサキ	ハナイバナ			●						在来・自生
389		コンフリー	●								外来・自生
390		キュウリグサ			●						在来・自生
391	ヒルガオ	コヒルガオ			●	●					在来・自生
392		ヒルガオ	●								在来・自生
393		マルバアサガオ	●								外来・自生
394	ナス	クコ	●	●		●					外来・自生
395		カンザシイヌホオズキ	●								外来・自生
396		ワルナスビ	●		●	●	●				外来・自生
397		トマト	●								栽培・植栽
398		ヒヨドリジョウゴ	●		●	●					在来・自生
399	モクセイ	シナレンギョウ	●			●	●				外来・植栽
400		ネズミモチ	●	●	●	●	●				在来・自生
401		トウネズミモチ	●		●						外来・植栽
402		イボタノキ	●	●	●						在来・植栽
403		キンモクセイ	●	●	●	●					外来・植栽
404		ヒイラギモクセイ	●		●	●					外来・植栽
405	オオバコ	オオバコ	●	●	●	●	●				在来・自生
406		ヘラオオバコ	●	●	●	●	●				外来・自生
407		タチイヌノフグリ	●	●	●						外来・自生
408		フラサバソウ		●							外来・自生
409		オオイヌノフグリ	●	●	●						外来・自生
410		カワヂシャ				●		NT	VU		在来・自生
411	アゼナ	タケトアゼナ				●					外来・自生
412	キツネノマゴ	キツネノマゴ	●				●				在来・自生
413	シソ	キラソウ				●					在来・自生
414		コムラサキ	●						(DD)		在来・植栽
415		ムラサキシキブ			●		●				在来・自生
416		ヤブムラサキ	●								在来・自生
417		クサギ	●		●						在来・自生
418		トウバナ	●		●						在来・自生
419		カキドオシ	●	●	●	●					在来・自生
420		ホトケノザ		●	●						在来・自生
421		ヒメオドリコソウ	●	●	●						外来・自生
422		コショウハッカ	●								外来・自生
423		ヒメジョ				●	●				在来・自生
424		イヌコウジュ	●								在来・自生
425		シソ	●								外来・自生
426		アキノタムラソウ		●							在来・自生
427		サルビア				●					外来・植栽
428		シロバナコバノタツナミ			●						在来・自生
429		イヌゴマ	●		●	●					在来・自生
430	サギゴケ	ムラサキサギゴケ			●						在来・自生
431		トキワハゼ	●								在来・自生
432	ハエドクソウ	ハエドクソウ			●	●	●				在来・自生
433	ハマウツボ	ヤセウツボ			●						外来・自生
434	ハナイカダ	ハナイカダ					●				在来・自生
435	モチノキ	イヌツゲ	●	●	●	●	●				在来・自生
436		モチノキ					●				在来・自生
437		ソヨゴ	●								在来・自生
438		クロガネモチ				●					在来・自生
439	キク	ブタクサ				●					外来・自生
440		オオブタクサ	●		●	●					外来・自生
441		ヨモギ	●	●	●	●	●				在来・自生
442		ユウガギク			●						在来・自生
443		ノコンギク			●						在来・自生
444		カントウヨメナ	●	●	●	●	●				在来・自生
445		アメリカセンダングサ	●		●	●	●				外来・自生
446		コセンダングサ	●		●	●	●				外来・自生
447		ヤブタバコ		●	●	●	●				在来・自生
448		ガンクビソウ	●								在来・自生
449		タイアザミ	●		●	●					在来・自生
450		アメリカオニアザミ	●								外来・自生

表 3.1-4(6) 植物確認種一覧(6)

No.	科名	和名	秋季	早春季	春季	夏季	植生調査	重要種		外来生物法	区分
			R2.11.4	R3.3.17	R3.4.27	R3.7.2	R3.7.20	環境省2020	東京都2020		
451		ハルシヤギク	●				●				外来・自生
452		キバナコスモス	●					●			外来・自生
453		アメリカカタカサプロウ	●				●				外来・自生
454		ダンドボロギク	●				●				外来・自生
455		ヒメジョオン	●		●			●			外来・自生
456		ハルジオン		●	●						外来・自生
457		オオアレチノギク	●	●	●		●				外来・自生
458		ツワブキ		●			●				在来・植栽
459		ハキダメギク	●				●				外来・自生
460		ウラジロチチコグサ	●		●						外来・自生
461		チチコグサモドキ	●				●				外来・自生
462		キクイモ	●				●				外来・自生
463		ブタナ	●	●	●		●				外来・自生
464		ニガナ			●						在来・自生
465		オオジシバリ	●		●						在来・自生
466		イワニガナ			●						在来・自生
467		アキノノゲシ	●		●		●				在来・自生
468		ヤブタバコ	●		●						在来・自生
469		フキ	●	●	●		●				在来・自生
470		コウゾリナ	●		●			●			在来・自生
471		セイタカアワダチソウ	●	●	●		●				外来・自生
472		オニノゲシ	●		●						外来・自生
473		ノゲシ	●	●	●		●				外来・自生
474		セイヨウタンポポ	●	●	●		●				外来・自生
475		カントウタンポポ		●	●						在来・自生
476		オオオナモミ					●				外来・自生
477		オニタバコ			●		●				在来・自生
478	ガマズミ	ニワトコ	●	●			●				在来・自生
479	スイカズラ	ハナツクバネウツギ	●	●			●				栽培・植栽
480		ウグイスカグラ						●			在来・自生
481		スイカズラ	●	●	●		●				在来・自生
482		ニシキウツギ	●				●				在来・自生
483	ウコギ	タラノギ	●		●						在来・自生
484		ヤツデ	●	●	●		●				在来・自生
485		ノチドメ	●				●				在来・自生
486		オオチドメ			●		●				在来・自生
487		チドメグサ	●				●				在来・自生
488	セリ	アシタバ	●	●							在来・自生
489		ミツバ			●						在来・自生
490		セリ	●	●	●		●				在来・自生
491		ヤブニンジン			●						在来・自生
492		ヤブジラミ					●				在来・自生
493		オヤブジラミ		●	●		●				在来・自生
111科		493種	335種	167種	263種	231種	135種	3種	10種	1種	

重要種選定基準:

種の保存法; 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成4年6月5日. 法律第75号)

国内: 国内希少野生動植物種, 国際: 国際希少野生動植物種

文化財保護法; 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)により国、東京都、府中市、小金井市等の天然記念物、特別天然記念物に指定されているもの

環境省2020: 環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表) (令和2年3月. 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A類 EN: 絶滅危惧 I B類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 純絶滅危惧

DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020: 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部) - 東京都レッドリスト(本土部) 2020年版- (令和3年 東京都環境局)の「北多摩地区」「多摩地区」の掲載種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A類 EN: 絶滅危惧 I B類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 純絶滅危惧

DD: 情報不足 *: 留意種

外来種: 侵入生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

特定: 外来生物法の特定外来生物

*1: 重要種の()書きは、植栽されたもの、もしくは植栽されたものが起源であることが明らかなもの。

トキワマンサク、シロヤマブキ、ハクチョウゲ、コムラサキは分布や生育状況から考えて植栽起源と考えられるため、重要種として扱わない。

(3) 既往資料による重要種

調査対象範囲内の野川と第一調整池、第二調節地では、平成18年度から自然再生事業が実施されており、動植物の現地調査も平成20年から実施されている。この調査で確認された植物のうち重要種を表3.1-5に示す。自然再生事業実施地とその周辺の野川ではこれまでに16種の重要種が確認されている。これらは毎年確認されているものも含んでいるが、単年度のみ確認されている種もある。

17種のうち、コムラサキ、カワヂシャ、ノカンゾウ、ミクリ、ウキヤガラ、ミコシガヤの6種は今回の調査で確認されている(コムラサキについては、今回の調査では植栽されたものの逸出と判断し、重要種として扱っていない。またタカサブロウは、近縁種であるアメリカタカサブロウが今回調査で確認されている)。

自然再生事業の調査では、調査範囲が今回と異なること(第一、第二調整池を含み野川沿いに広がっているが樹林地を含まない)、調査期間が12年と長いことなどが重要種の種数の違いの要因と考えられる。

表 3.1-5 自然再生事業の調査で確認された植物の重要種(平成20年度～平成31年度)

No.	科	種	既往調査(2008～2019年)			今回調査	重要種	
						2021年	環境省2020	東京都2020
1	ヤナギ	ジャヤナギ			●			NT
2	モクレン	シデコブシ	●				NT	
3	ユキノシタ	タコノアシ			●		NT	NT
4	バラ	ズミ	●					VU
5	クマツヅラ	コムラサキ	●		●	(○)		DD
6	シソ	ハッカ	●		●			VU
7		ミソコウジュ	●	●			NT	VU
8	ゴマノハグサ	カワヂシャ			●	○	NT	VU
9	キク	タカサブロウ	●	●	●			*
10	ユリ	ノカンゾウ	●		●	○		NT
11	ヒガンバナ	キツネノカミソリ			●			VU
12	イネ	ヌメリグサ	●					NT
13	ミクリ	ミクリ	●		●	○	NT	NT
14	カヤツリグサ	ウキヤガラ	●		●	○		VU
15		ミコシガヤ		●	●	○		NT
16		カンエンガヤツリ	●		●		NT	NT
17		クロテンツキ	●	●	●			EN
	13科	17種	12	4	13	6	6	16

種の名称及び配列は「日本維管束植物目録」(米倉ほか 2012年)及び「米倉浩司・梶田忠 (2003-)」

「BG Plants 和名-学名インデックス」(YList), <http://ylist.info>に準拠した。

種の名称及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データベース,国土交通省)に準拠した。

重要種:

環境省2020: 環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表)(令和2年3月, 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A類 EN: 絶滅危惧 I B類 VU: 絶滅危惧 II類 NT: 純絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020: 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)-東京都レッドリスト(本土部)2020年版-(令和3年 東京都環境局)の「北多摩地区」「多摩地区」の掲載種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A類 EN: 絶滅危惧 I B類 VU: 絶滅危惧 II類 NT: 純絶滅危惧 DD: 情報不足 *: 留意種

「野川生物調査委託(その12)報告書」, 令和2年3月, 東京都北多摩南部建設事務所・株式会社フィスコより作成

3.2 植物群落調査

植物群落調査は、群落がよく発達する夏季の7月20日に実施した。今回の調査範囲の多くは都市公園内であり、人工的な植栽地が多くを占めるが、こうした植栽地も調査対象として取り扱い、7カ所でコドラートによる組成調査を行った。コドラートは、

- ・できるだけ自然状態に近い植生を示す部分
- ・調査範囲内で広い面積を占める植生・土地利用の部分

を選定した。図 3.2-1 にコドラートの位置を示す。

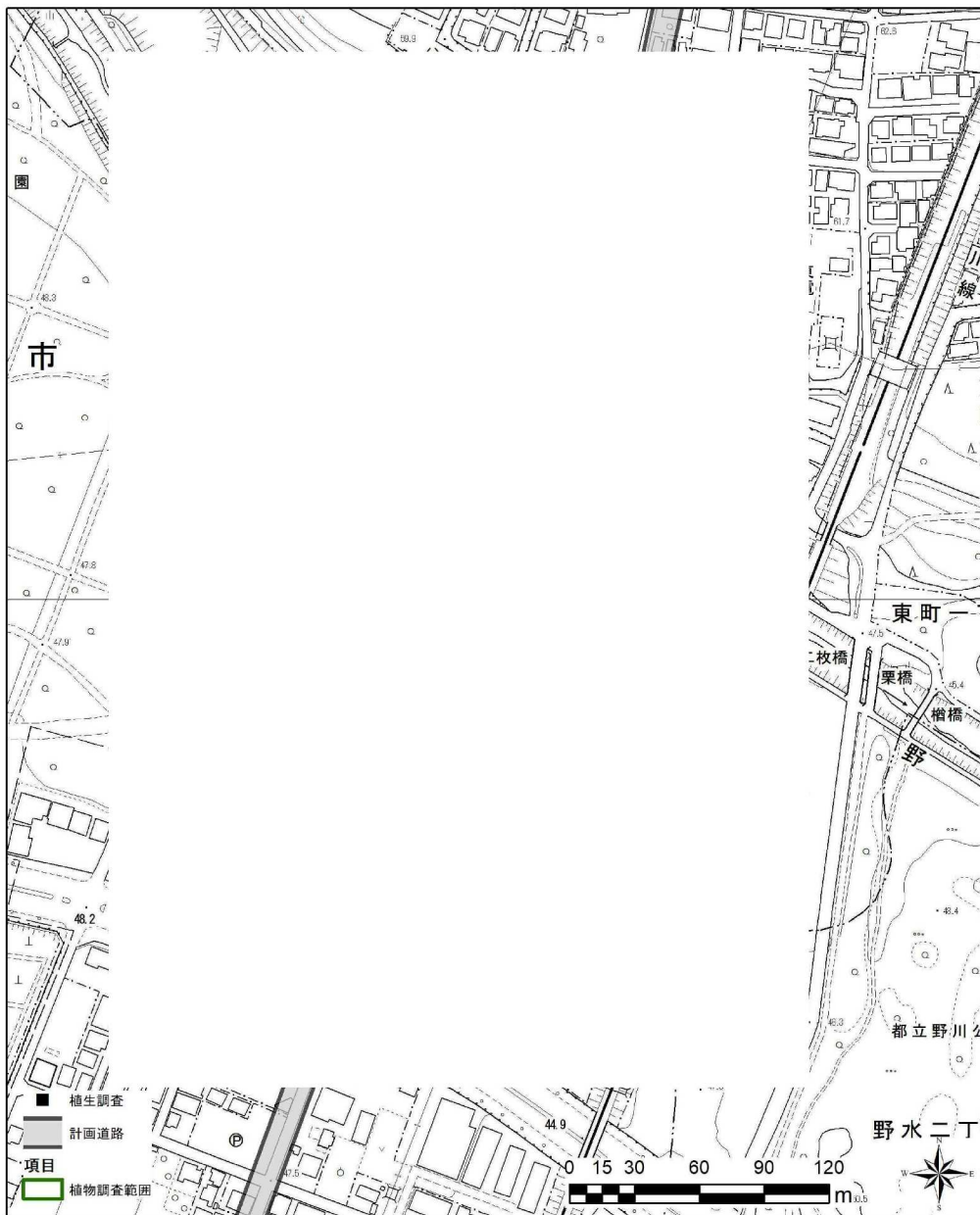


図 3.2-1 植物群落調査地点

表 3.2-1 植物群落調査地点の概要

地点番号	名称	植生の概要
地点 1	雑木林(ムクノキ等)	ハケの森の閉鎖管理地で西側の部分はムクノキ、アカマツなどからなる林分となっている。
地点 2	雑木林(コナラ等)	ハケの森の閉鎖管理地で東側の部分はコナラ、クヌギなど落葉広葉樹がからなる林分
地点 3	抽水植物群落 (ウキヤガラ等)	自然再生地の湿地はウキヤガラを主体とした抽水植物群落となっている。
地点 4	オギ草地	自然再生地の多くを占めているオギを主体と草本植生
地点 5	抽水植物群落 (ヒメガマ等)	抽水植物群落で野川沿い部分はヒメガマやミクリ、ウキヤガラなどが混じる。
地点 6	公園内植栽地	ケヤキやアメリカスズカケノキなど多様な樹種からなる植栽された植生
地点 7	芝地	主にシバからなる植栽地
補足	混交林(シラカシ等)	ハケの森の閉鎖管理地で中央の部分はシラカシやツバキなど植栽された樹木が主体となっている。

※補足地点は定性的な観察のため調査票はない。

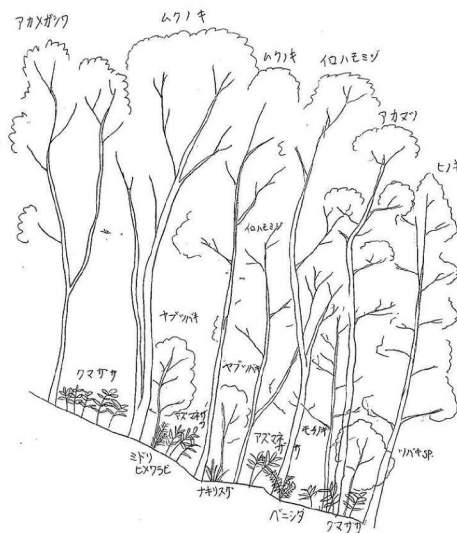
調査結果の植生調査票は表 3.2-2(1)～(7)に示すとおりである。

表 3.2-2(1) 植物群落調査票(1)

調査地： 東京都小金井市
 (地 形) 山頂：尾根：(斜面)：上・中・(下)・凹・凸：谷：平地
 ボド性：(褐)・赤・黄・黄褐・森・アンド・グライ
 (土 壤) 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層
 固岩層・水面下・黒ボク・その他

(風 当) 強・(中)・弱 (傾斜方向) S30-W
 (日 当) 陽・(中陰)・陰 (傾 斜 度) 22°
 (土 湿) 乾・(適)・湿・過湿 (北 緯)
 (面 積) 20 × 20 m² (東 経)
 (海 抜) - m (出現種数) 種

(階 層)	(優 占 種)	(高 さ m)	(植 被 率 %)
I 高木層(T1)	ムクノキ	18 ~ 19	90
II 亜高木層(T2)	イロハモミジ	7 ~ 9	30
III 低木層(S1)	ヤブツバキ	2 ~ 3	30
	(S2)	~	~
IV 草本層(K)	クマザサ	0.1 ~ 1.4	90
	(H2)	~	~
V コケ層(M)		~	~



群落名： 調査日： 2021/7/20 調査者： 大塚・亀井

階層	D・S	種 名	階層	D・S	種 名	階層	D・S	種 名
T1	1・1	アカマツ	K	+・2	ジャリンバイ			
	2・2	ヒノキ		+	ムクノキ			
	2・2	イロハモミジ		+	ヤマグワ			
	1・1	ミズキ		+	ベニシダ			
	3・2	ムクノキ		+	ユキヤナギ			
	1・1	アカメガシワ		+	フタリシズカ			
				+	ヤマノイモ			
				+	ホウチャクソウ			
				+	ヤツデ			
				+	サンショウ			
T2	2・2	イロハモミジ	+	アオキ				
	1・1	モチノキ	+	ムラサキシキブ				
	1・1	アカメガシワ	+	ケヤキ				
	1・1	ハリエンジュ	+	ヒサカキ				
			+	サルトリイバラ				
S1	2・2	ツバキsp.	+	マンリョウ				
	2・2	ヤブツバキ	+	ハナイカダ				
	1・1	ヤマグワ	+	ビワ				
	1・1	アカメガシワ	+	オニドコロ				
			+	ノイバラ				
K	3・3	クマザサ	+	ウグイスカグラ				
	3・2	アズマネザサ	+	ミドリヒメワラビ				
	2・2	ドクダミ	+	ナツノハナワラビ				
	2・2	イヌワラビ						
	1・1	タチツボスミレ						
	2・1	ハエドクソウ						
	+	エノキ						
	2・2	テイカカズラ						
	1・1	ナンテン						
	1・1	ツタ						
	+	ヤブラン						
	+	ネズミモチ						
	+・2	ナキリスゲ						
	+	ミズヒキ						
	+・2	シュロ						

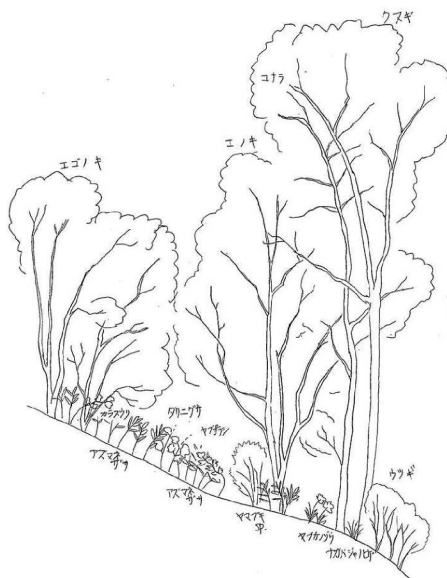
注) S : 階層 (stratum)
 D・S : 優占度 (dominance) ・ 群度 (sociability)
 S P P : 種名

表 3.2-3(2) 植物群落調査票(2)

調査地： 東京都小金井市
 (地 形) 山頂：尾根：(斜面)：上・中・**下**・凹・凸：谷：平地
 ボド性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ
 (土 壤) 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層
 固岩層・水面下・黒ボク・その他

(風 当) 強・**中**・弱 (傾斜方向) S30-W
 (日 当) 陽・**中陰**・陰 (傾斜度) 17°
 (土 湿) 乾・**適**・湿・過湿 (北 緯)
 (面 積) 20 × 20 m² (東 経)
 (海 抜) - m (出現種数) 種

(階 層)	(優 占 種)	(高さm)	(植被率%)
I 高木層(T1)	クスギ	20 ~ 22	70
II 亜高木層(T2)	エゴノキ	7 ~ 9	20
III 低木層(S1)	ウツギ	1.8 ~ 3	20
	(S2)	~	
IV 草本層(K)	アズマネザサ	0.1 ~ 1.2	95
	(H2)	~	
V コケ層(M)		~	



群落名： 調査日： 2021/7/20 調査者： 大塚・亀井

階層	D-S	種 名	階層	D-S	種 名	階層	D-S	種 名
T1	3-3	クスギ						
	2-2	コナラ						
	1-1	エノキ						
T2	2-2	エゴノキ						
	1-1	クスギ						
	1-1	コナラ						
	1-1	イロハモミジ						
S1	1-1	ヤマブキsp.						
	+	アセビ						
	2-1	ウツギ						
	1-1	ヒメコウゾ						
K	4-4	アズマネザサ						
	2-1	アケビ						
	+	エノキ						
	1-1	オニドコロ						
	1-1	ナガバジャノヒゲ						
	1-1	センニンソウ						
	1-1	ヤブカラシ						
	2-2	ヤブカンゾウ						
	2-2	コチヂミザサ						
	+	シオデ						
	+	コナラ						
	1-1	ツタ						
	+	ツルウメモドキ						
	1-1	ヘクソカズラ						
	+	カラスウリ						
	2-2	ドクダミ						
	1-1	タケニグサ						
	1-1	ホウチャクソウ						
	+	ノブドウ						
	+	サンショウ						

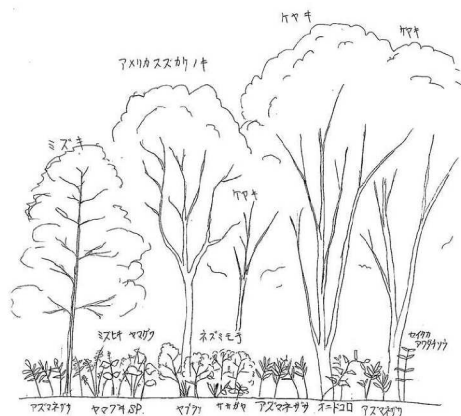
注) S : 階層 (stratum)
 D・S : 優占度 (dominance) ・群度 (sociability)
 S P P : 種名

表 3.2-7(6) 植物群落調査票(6)

調査地： 東京都小金井市
 (地形) 山頂：尾根：斜面：上・中・下・凹・凸：谷(平地)
 ボド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ
 (土壌) 擬グライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層
 固岩層・水面下・黒ボク・その他(不明)

(風当) 強・(中)・弱 (傾斜方向) -
 (日当) (陽)・中陰・陰 (傾斜度) °
 (土湿) 乾・適・湿・(過湿) (北緯)
 (面積) 2 × 2 m² (東経)
 (海拔) - m (出現種数) 種

階層	優占種	高さ(m)	植被率%
I 高木層(T1)	ケヤキ	18 ~ 20	70
II 亜高木層(T2)	ケヤキ	8 ~ 10	50
III 低木層(S1)	ヤマブキsp. (S2)	1 ~ 3 ~	40
IV 草本層(K)	アズマネザサ (H2)	0.1 ~ 1 ~	85
V コケ層(M)		~	

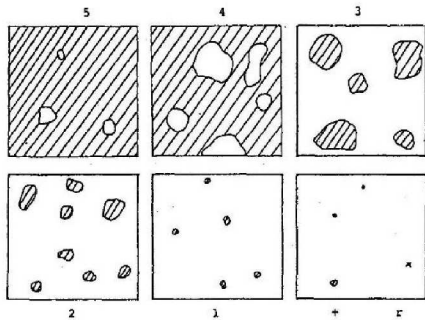


群落名： 公園内植栽地 調査日： 2021/7/20 調査者： 大塚・亀井

階層	D-S	種名	階層	D-S	種名	階層	D-S	種名
T1	3-3	ケヤキ	K	1-1	オニドコロ			
	1-1	クヌギ		1-1	イヌワラビ			
	1-1	アメリカスズカケノキ		+2	カラスウリ			
	1-1	ヒノキ		+	ミズヒキ			
T2	2-2	ケヤキ	+2	ムクノキ				
	2-2	サクラ	+	アカメガシワ				
	1-1	ミズキ	+	ヤブラン				
	1-1	ヒノキ	+	ニワウルシ				
			+	センダン				
S1	2-1	ヤマブキsp.	+	ジャノヒゲ				
	2-2	ネズミモチ	+	カントウヨメナ				
	1-1	モクレン属の一種	1-1	アシボソ				
	1-1	ヤマボウシ	+	タブノキ				
	1-1	サカキ	+	ハクウンボク				
	1-1	ナワシログミ	+	コウゾリナ				
K	3-3	アズマネザサ	+	ユリノキ				
	2-2	ヘクソカズラ						
	2-2	コネズミガヤ						
	+	エノキ						
	+2	マルバスマミレ						
	1-1	ササガヤ						
	1-1	キツネノマゴ						
	+2	ヤマノイモ						
	+2	ノブドウ						
	+	ヤマグワ						
	+	カタバミ						
	+	ヒメジョオン						
	+	セイタカアワダチソウ						
	+	ワルナスビ						
+	ヒナタイノコヅチ							

注) S: 階層 (stratum)
 D-S: 優占度 (dominance) ・ 群度 (sociability)
 SPP: 種名

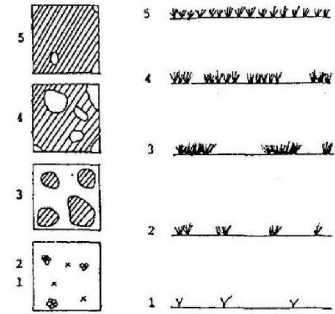
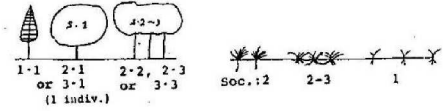
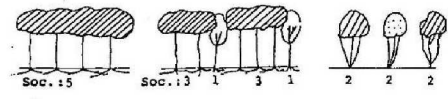
被度の説明



被度のパターン

- 5: 被度が調査面積の 3/4 以上を占めている。個体数は任意。
- 4: 被度が調査面積の 1/2~3/4 を占めている。個体数は任意。
- 3: 被度が調査面積の 1/4~1/2 を占めている。個体数は任意。
- 2: 被度が調査面積の 1/10 ~1/4 を占める。または、それ以下であっても個体数がきわめて多い。
- 1: 被度が調査面積の 1/10 以下であるが、個体数が多い。
- r: きわめて低い被度で、わずかな個体数。
- r: きわめてまれに最小被度で出現する。

群度の説明



群度のパターン

- 5: 植生調査区内にカーペット状に一面に生育している。
- 4: 大きい班紋状。カーペットのあちこちに穴があいているような状態。
- 3: 小群の班紋状。
- 2: 小群状。
- 1: 単生。



図 3.3-1 植生図

4 動物調査結果

4.1 哺乳類調査

哺乳類調査は秋季(令和2年11月12・13日)と春季(令和3年4月19・20日)に実施した。調査方法は踏査によるフィールドサインの確認とシャーマントラップによる小型哺乳類の捕獲確認のほか、春季調査では無人撮影を行った。

調査の結果、哺乳類は3目4科4種類が確認された。多く確認されたのはモグラ科の一種のモグラ塚で野川沿いの草地や斜面林内など各所で認められた。今回の調査ではモグラ塚による確認のみであるため、種の同定に至らなかったが、分布域から考えてアズマモグラと考えられる。アカネズミは閉鎖管理地の混交林に設置したトラップで秋季に1個体が捕獲された。アライグマは野川公園内のバードサンクチュアリで秋季に足跡により確認されたほか、春季に閉鎖管理地で無人撮影により確認された。ホンダタヌキも春季に無人撮影で閉鎖管理地とバードサンクチュアリで確認され、とくに閉鎖管理地では2個体が撮影されていた。

重要な種は確認されなかった。

表 4.1-1 哺乳類調査結果

No.	目名	科名	種名	秋季	春季	重要種				外来種
				R2,11,12・13	R3,4,19/20	種の保存法	文化財保護法	環境省	東京都	
1	モグラ目(食虫目)	モグラ科	モグラ科の一種	●	●					
2	ネズミ目(齧歯目)	ネズミ科	アカネズミ	●						
3	ネコ目(食肉目)	アライグマ科	アライグマ	●	●					特定外来
4		イヌ科	ホンダタヌキ		●					
	3目	4科	4種	3種	3種	0種	0種	0種	0種	1種

種の名称及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データベース,国土交通省)に準拠した。

重要種選定基準:

種の保存法:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年6月5日,法律第75号)

国内:国内希少野生動植物種,国際:国際希少野生動植物種

文化財保護法:「文化財保護法」(昭和25年,法律第214号)により国,東京都,府中市,小金井市等の天然記念物、

特別天然記念物に指定されているもの

環境省2020:環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表)(令和2年3月,環境省)

EX:絶滅 FW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:純絶滅危惧

DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)-東京都レッドリスト(本土部)2020年版-(令和3年,東京都環境局)

の「北多摩地区」「多摩地区」の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:純絶滅危惧

DD:情報不足 *:留意種

外来種:侵入生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種:人間によって自然分布域以外の地域に移動させられた生物

特定外来:外来生物法の指定種



モグラ科の一種(モグラ塚)

令和2年11月12日撮影



アカネズミ

令和2年11月13日撮影



アライグマ(無人撮影機 A)

令和3年4月20日撮影



ホンドタヌキ(無人撮影機 A)

令和3年4月19日撮影



図 4.1-1 哺乳類トラップ設置位置

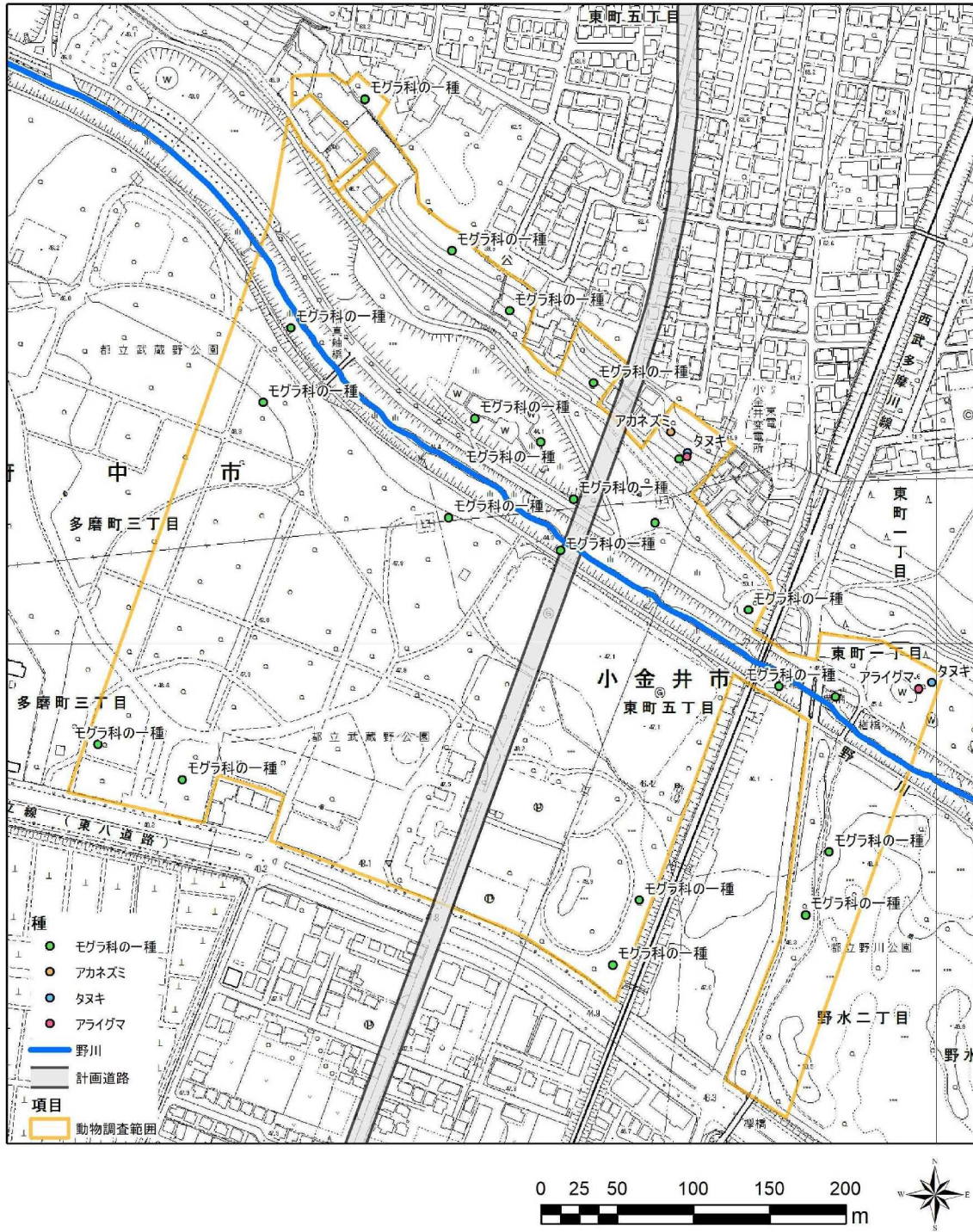


図 4.1-2 哺乳類確認位置

4.2 鳥類調査

4.2.1 調査結果

鳥類調査は、冬季(令和3年1月13日)と春季(令和3年5月11日)、夏季(令和3年7月6日)に実施した。調査ルートは図4.2-1に示す3ルートである。このほか調査範囲内を踏査し、確認された鳥類を記録した。さらに鳥類以外の調査時に観察された種も任意に記録した。

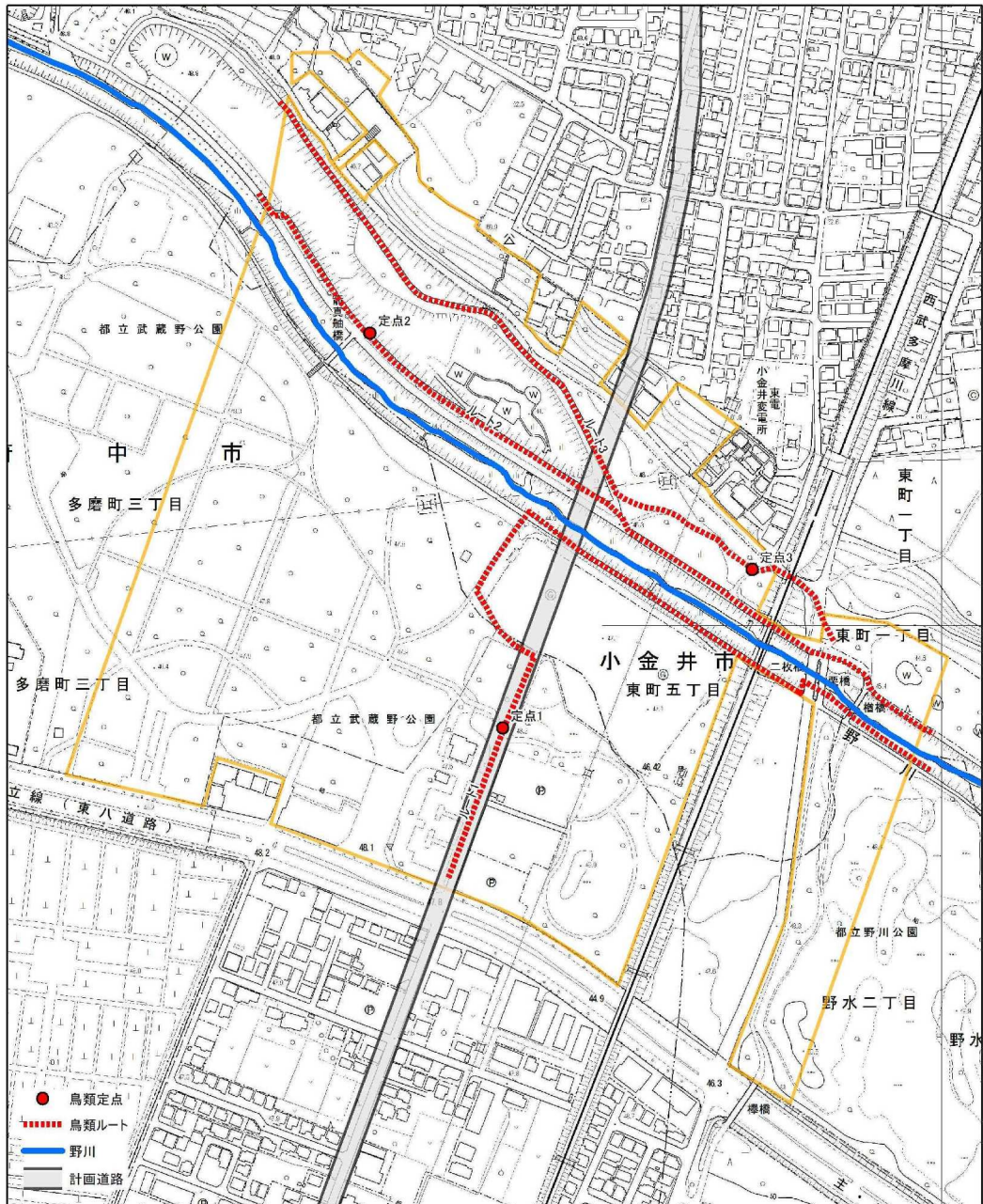


図 4.2-1 鳥類調査位置



確認された鳥類は表 4.2-1 に示すとおり、10 目 25 科 35 種である。とくに個体数が多かったのはヒヨドリ、ムクドリ、スズメといった都市部から農村地帯で普通に見られる種で、ほかに冬季にはツグミやジョウビタキ、アオジと言った冬鳥、春季には夏鳥であるセンダイムシクイやキビタキも確認された。

表 4.2-1 鳥類確認種

No.	目	科	種	冬季(R3/1/13)			春季(R3/5/11)			夏季(R3/7/6)			計	その他	環境省 2020	東京都 2020	外来種	
				ルート1	ルート2	ルート3	任意	計	ルート1	ルート2	ルート3	任意						計
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1				1					1				外来種	
2	ツル目	クイナ科	クイナ											○		DD		
3	カモ目	カルガモ科	カルガモ	1	1			2						○				
4	ハト目	キジバト科	キジバト	1	2			3				1	3					
5	ペリカン目	サギ科	アオサギ		1	1		2						○				
6		ダイサギ科	ダイサギ			1		1										
7	タカ目	タカ科	オオタカ											○	NT	VU		
8	ブツブツウ目	カワセミ科	カワセミ	1				1						○		NT		
9	キツツキ目	キツツキ科	コガラ	1			○	2	2			1	5	○				
10			アオガラ				○	1					1					
11	インコ目	インコ科	ホンセイインコ									1	2				外来種	
12	スズメ目	スズメ科	モズ	1				1						○		VU		
13		カラス科	オナガ		1			1								NT		
14			ハンボトソガラス	1	2	1		4						○				
15			ハシブトガラス	2	1			3	1	1		2	4	○				
16		シジュウカラ科	ヤマガラス				○	1					1	○				
17			シジュウカラ	2	1	2		5	1	4		2	9	○				
18		ツバメ科	ツバメ															
19		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	6	7	3		16	1	1		2	4	○				
20		ウグイス科	ウグイス				○	1	2	1		1	2	○				
21		エナガ科	エナガ		1			1					1	○				
22		ムシクイ科	センダイムシクイ							1	1	1	2			CR		
23		チメドリ科	チビチヨウ											○			特定外来	
24		メジロ科	メジロ	1	2	1		4	2	1		2	4	○				
25		ムクドリ科	ムクドリ	1	1	1		2	1	3		5	2					
26		ヒタキ科	シロハラ	1	2			3										
27			ツグミ	2				2										
28			ジョウビタキ															
29			キビタキ				○	1										
30		スズメ科	スズメ	1	2	1		4	1	2		4	7	○				
31		セキレイ科	ハクセキレイ		2			2						○				
32		アトリ科	カワラヒワ						1	1		1	2					
33			シマ			1		1										
34			イカル			1		1								NT		
35	10目	ホオジロ科	アオジ		1	2		3						○			3種	
		25科	35種	13種	14種	13種	5種	27種	5種	13種	11種	13種	9種	21種	6種	1種	7種	3種

数値は個体数

種の名称及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データデータベース(令和2年3月、環境省))

環境省2020：環境省レッドリスト2020の公表について(環境省) (令和2年3月、環境省)

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VI：絶滅危惧Ⅱ類 NT：絶滅危惧Ⅲ類 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020：東京都の保護上重要な野生生物種(水生物) -東京都レッドリスト(水生物) 2020年版- (令和3年 東京都環境局)の「北多摩地区」「多摩地区」「多摩地区」の掲載種

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VI：絶滅危惧Ⅱ類 NT：絶滅危惧Ⅲ類 DD：情報不足 *：留意種

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成

外来種：徳人生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)より作成





4.2.2 重要種

重要種は、クイナ、オオタカ、カワセミ、モズ、オナガ、センダイムシクイ、イカルの7種である。クイナは秋季の植物調査時に で1個体が確認された。オオタカは秋季の哺乳類調査時に で上空を飛翔する個体が観察された。本種は、野川公園内の展示によれば、隣接する で営巣しているとされている。カワセミは冬季に で確認されたほか秋季植物調査時にも で観察された。モズは冬季調査時に や で1個体が確認された。オナガは冬季調査、春季調査時に で確認された。センダイムシクイは春季調査時に でさえずっている個体が確認された。イカルは冬季調査時に で1個体が確認されたほか、夏季にも で声により確認された。

表 4.2-2 鳥類の重要種

 <p>他地域で撮影</p>	クイナ	
	東京都レッドリスト 情報不足(DD)	
 <p>他地域で撮影</p>	生態等	大きさは30cmほどの水鳥で、湿原や河川などの水辺のクさんすらや水田に生息する半夜行性。
	確認状況	で秋季の植物調査時に1個体が観察された。
 <p>他地域で撮影</p>	オオタカ	
	環境省レッドリスト 準絶滅危惧(NT) 東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類(VU)	
 <p>他地域で撮影</p>	生態等	全長50-60cmほどでメスの方がやや大きい。全国の平地から山地までの樹林地に生息するが近年は都市部でも観察されている。
	確認状況	秋季の哺乳類調査時に の上空を飛翔する個体が観察された。 で営巣しているとされる。
 <p>他地域で撮影</p>	カワセミ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧(NT)	
 <p>他地域で撮影</p>	生態等	スズメほどの大きさで上面はコバルト色、下面はオレンジ色。水辺で生活し小型の魚類を食べる。水辺の土手に穴を掘って繁殖する。
	確認状況	冬季に で観察された。

 <p>他地域で撮影</p>	モズ	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
 <p>他地域で撮影</p>	生態等	大きさは 20mm ほどで尾が細長い。平地から山地の農耕地や草地に生息する。昆虫やトカゲなどの小動物を捕食する。
	確認状況	冬季に や で確認されたほか、秋季の植物調査時にも確認されている。
 <p>他地域で撮影</p>	オナガ	
	東京都レッドリスト 留意種	
 <p>他地域で撮影</p>	生態等	35cm ほどで尾が長い。平地から山地の農耕地、公園や雑木林に生息する。市街地でもみられる。
	確認状況	冬季、春季に で声により確認された。
 <p>他地域で撮影</p>	センダイムシクイ	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 I 類 (CR)	
 <p>他地域で撮影</p>	生態等	全長 14cm ほどの黄緑色の小型の鳥。日本には夏鳥として平地、山地の林に渡来して繁殖する。
	確認状況	春季調査時に でさえずっている個体が確認されたが、その後は確認されていない。
<p>他地域で撮影</p>	イカル	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
<p>他地域で撮影</p>	生態等	全長 23cm ほどで体は明るい灰色。平地から山地の林に生息するが周辺の農地などにも出てくる。
	確認状況	冬季調査時に で 1 個体が確認されたほか、夏季にも で声により確認された。

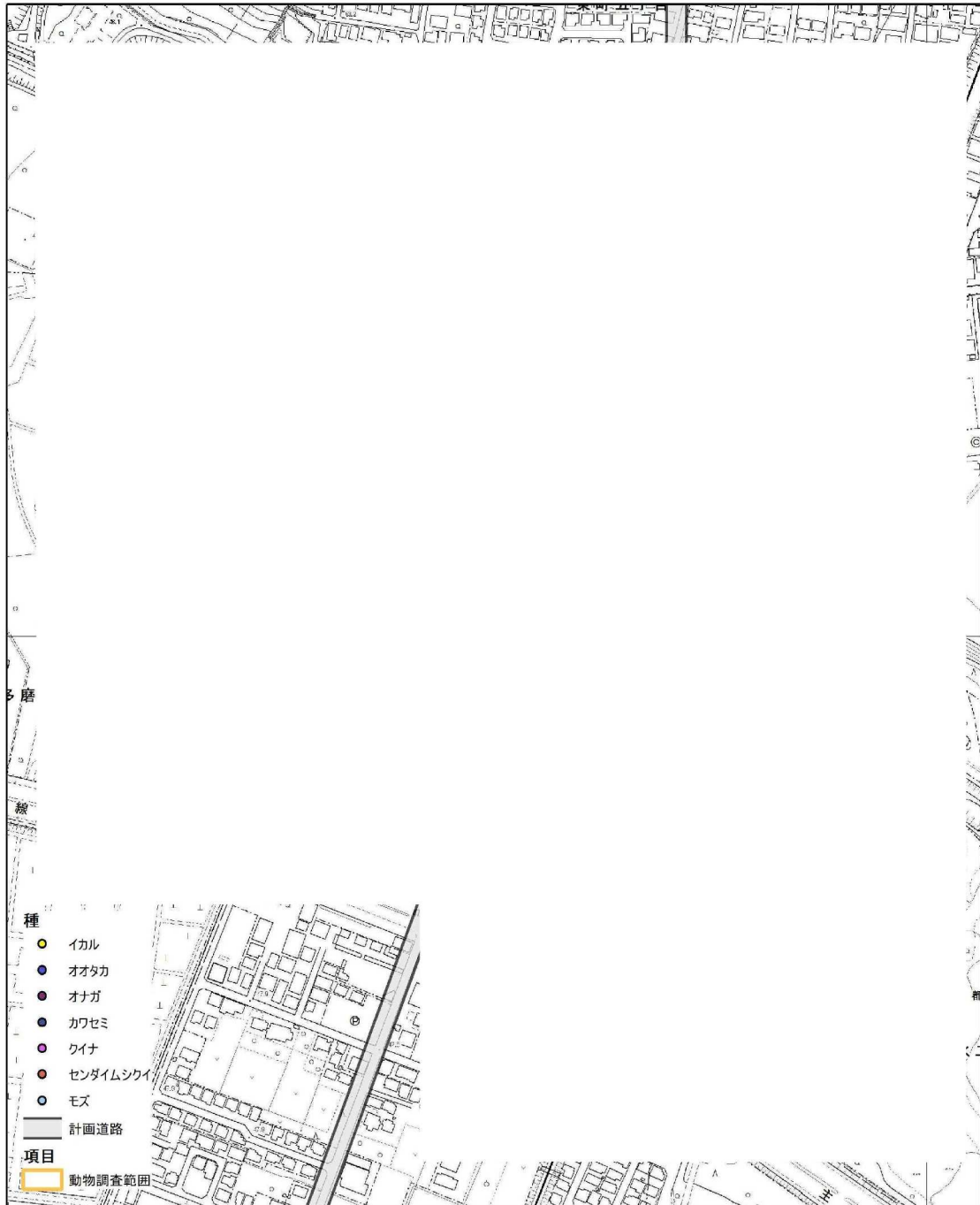


図 4.2-2 鳥類重要種確認位置

4.3 両生類・爬虫類調査

両生類・爬虫類調査は春季(令和3年4月19・20日)と夏季(令和3年7月2日)に実施した。このほか、秋季、春季の哺乳類調査時やその他の調査時に確認された両生類・爬虫類も併せて記録した。

調査の結果、表 4.3-1 に示すとおり両生類3種類、爬虫類5種類が確認された。両生類についてみると、ヒキガエルは春季に や などで幼生(オタマジャクシ)が多数確認されたほか、各季に で幼体が確認された。東京都は亜種アズマヒキガエルの自然分布域であるが、西日本の亜種ニホンヒキガエルと交雑が進んでいることが明らかにされている。今回確認されたのは幼体と幼生であることから、亜種アズマヒキガエルかニホンヒキガエルか同定されていないため「ヒキガエル」とした。本種は止水域で春季に産卵することから や周辺の水域で繁殖していると考えられる。ニホンアマガエルは夏季の鳥類調査時に鳴き声により確認されたが、姿は観察されていない。ウシガエルは、7月の底生動物調査や魚類調査時などに自然再生事業実施地内の水田やどじょう池などで幼生が多数観察されたほか、成体の鳴き声も聞かれている。

爬虫類についてみると、ミシシippアカミミガメは1個体が自然再生地の池で春季の昆虫調査時に確認された。ニホンヤモリは で確認された。ヒガシニホントカゲは で確認された。ニホンカナヘビは で観察されたが、 で比較的多く確認されている。アオダイショウは1個体が で確認されたほか、 でも確認されている。

重要種は、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウが該当する。また、ヒキガエルがアズマヒキガエルの場合は東京都レッドリスト(2020年版)の絶滅危惧II類(VU)に該当する。東京都のヒキガエルは、西日本の亜種ニホンヒキガエルと交配した集団が存在するとされているため、「ヒキガエル」とするが、重要種と同様の扱いとする。

表 4.3-1 両生類・爬虫類調査結果

No.	綱和名	目名	科和名	種和名	秋季	春季	夏季	その他	重要種				外来種		
					R2.11.12・13	R3.4.19・20	2021/7/2,6		種の保存法	文化財保護法	環境省2020	東京都2020			
1	両生類	無尾目	ヒキガエル科	ヒキガエル	●	●	●	●				VU			
2			アマガエル科	ニホンアマガエル			●	●							
3			アカガエル科	ウシガエル			●	●						特定	
4	爬虫類	カメ目	ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ				●					外来種		
5			有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	●	●	●					*		
6				トカゲ科	ヒガシニホントカゲ		●							VU	
7				カナヘビ科	ニホンカナヘビ	●	●		●					VU	
8			ナミヘビ科	アオダイショウ		●		●				NT			
		3目	8科	8種	3種	5種	4種	6種	0種	0種	0種	5種	2種		

種の名称及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データベース, 国土交通省)に準拠した。

※: 秋季は哺乳類調査として実施。

環境省2020: 環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表) (令和2年3月, 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 純絶滅危惧 D0: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020: 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)-東京都レッドリスト(本土部)2020年版(令和3年 東京都環境局)の「北多摩地区」の掲載種


EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 純絶滅危惧 D0: 情報不足 *: 留意種

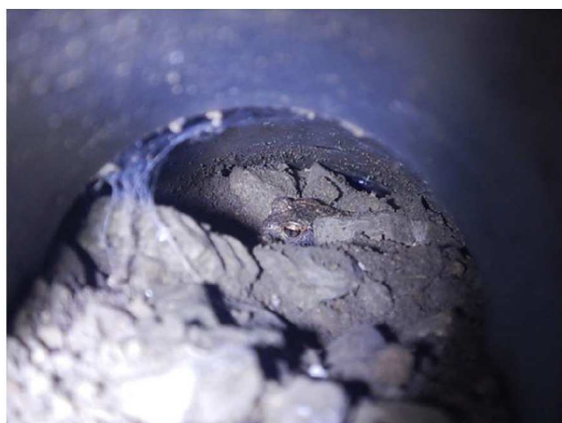
外来種: 侵入生物データベース(国立研究開発法人 国立環境研究所ホームページ)などにより作成

外来種: 人間によって自然分布域以外の地域に移動させられた生物, 特定: 外来生物法の指定種

※今回確認されたヒキガエルは、小型の個体(幼体)だったことから完全な種の確定に至らなかった。

	ヒキガエル	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
生態等	全長 10cm 内外、平地、山地の森林や畑などに生息し都市部でもみられる。春先に池や水田などの止水域に集合して産卵する。	
確認状況	秋季、春季の調査で で幼体が確認されたほか、春季には や周辺の水路で幼生が多数確認された。	
	ニホンヤモリ	
	東京都レッドリスト 留意種	
生態等	人家周辺にみられる、吸盤でガラス面でも歩行できる夜行性で昆虫やクモなどを食べる。	
確認状況	秋季、春季、夏季に で確認された。	
	ヒガシニホントカゲ	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
生態等	平地から山地の河川敷など開けた環境に生息する。人家や公園など都市部でもみられる。	
確認状況	春季の調査で で 1 個体が確認された。	
	ニホンカナヘビ	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
生態等	平地から丘陵、低山地の草むらや人家の人家の庭などで昆虫やクモなどを捕食する。春から夏にかけて草むらで産卵する。	
確認状況	秋季、春季に やその周辺で多く確認されたほか、昆虫調査等他の調査でも多く観察されている。	

	アオダイショウ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	耕作地や草むら、雑木林などに生息するが古い民家などでもみられる。大きなものは2m近くになる。
	確認状況	春季に で1個体が確認されたほか、昆虫類調査時にもで確認された。



ヒキガエル(幼体)

令和2年11月13日撮影



ヒキガエル(幼生)

令和3年4月19日撮影



ウシガエル(幼生)

令和3年7月6日撮影



ミシシippアカミミガメ

令和3年5月7日撮影

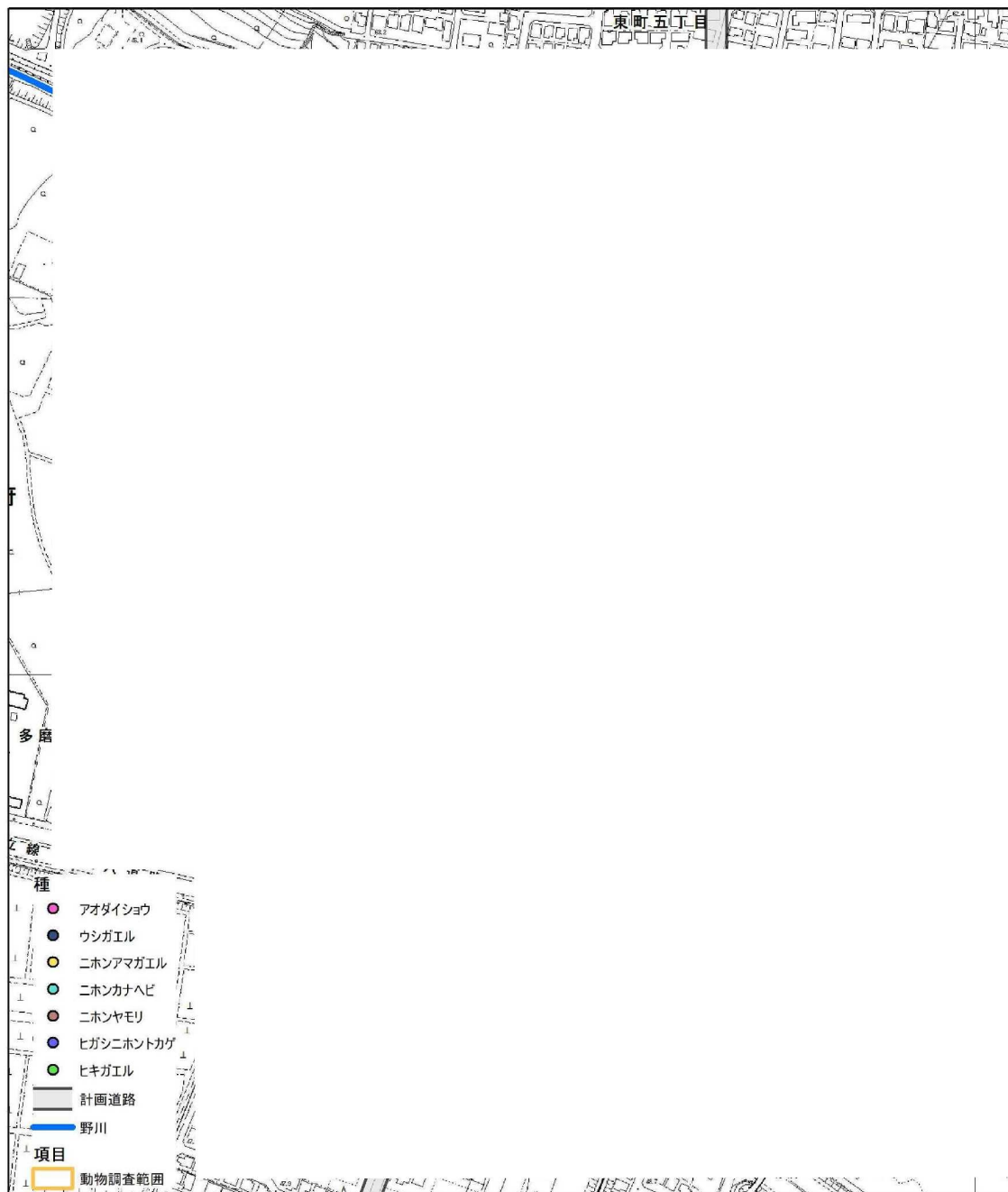


図 4.3-1 両生類・爬虫類確認位置

4.4 昆虫類調査

4.4.1 現地調査

昆虫類調査は春季(令和3年5月6・7日)及び夏季(8月2・3日)の2回実施した。調査の結果は14目136科425種が確認された。春季は252種、夏季は275種と夏季がやや多かった。

重要種は9種が確認されている。確認状況は表4.4-3～表4.4-5に示すとおりである。

表 4.4-1 昆虫類の重要種

No.	種名	季節			重要種		
		春季	夏季	その他	環境省	東京都2020	
					2020	多摩部	本土部
1	ハグロトンボ		●	●		○	○
2	ハラビロトンボ		●	●		NT	NT
3	リスアカネ		●			NT	NT
4	エノキカイガラキジラミ	●			NT		
5	オオアメンボ		●			NT	NT
6	ヒオドシチョウ	●				NT	NT
7	ウバタマムシ		●			NT	NT
8	トラフカミキリ		●			NT	NT
9	モンズズメバチ		●		DD		
	合計	2種	7種	2種	2種	7種	7種

環境省2020：環境省レッドリスト2020の公表について（報道発表）（令和2年3月、環境省）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類

NT：純絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020：東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）-東京都レッドリスト（本土部）2020年版-」（令和3年 東京都環境局）の「北多摩地区」「多摩地区」の掲載種

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類

NT：純絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種 ○：ランク（各カテゴリーに該当しないもの）

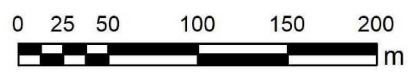
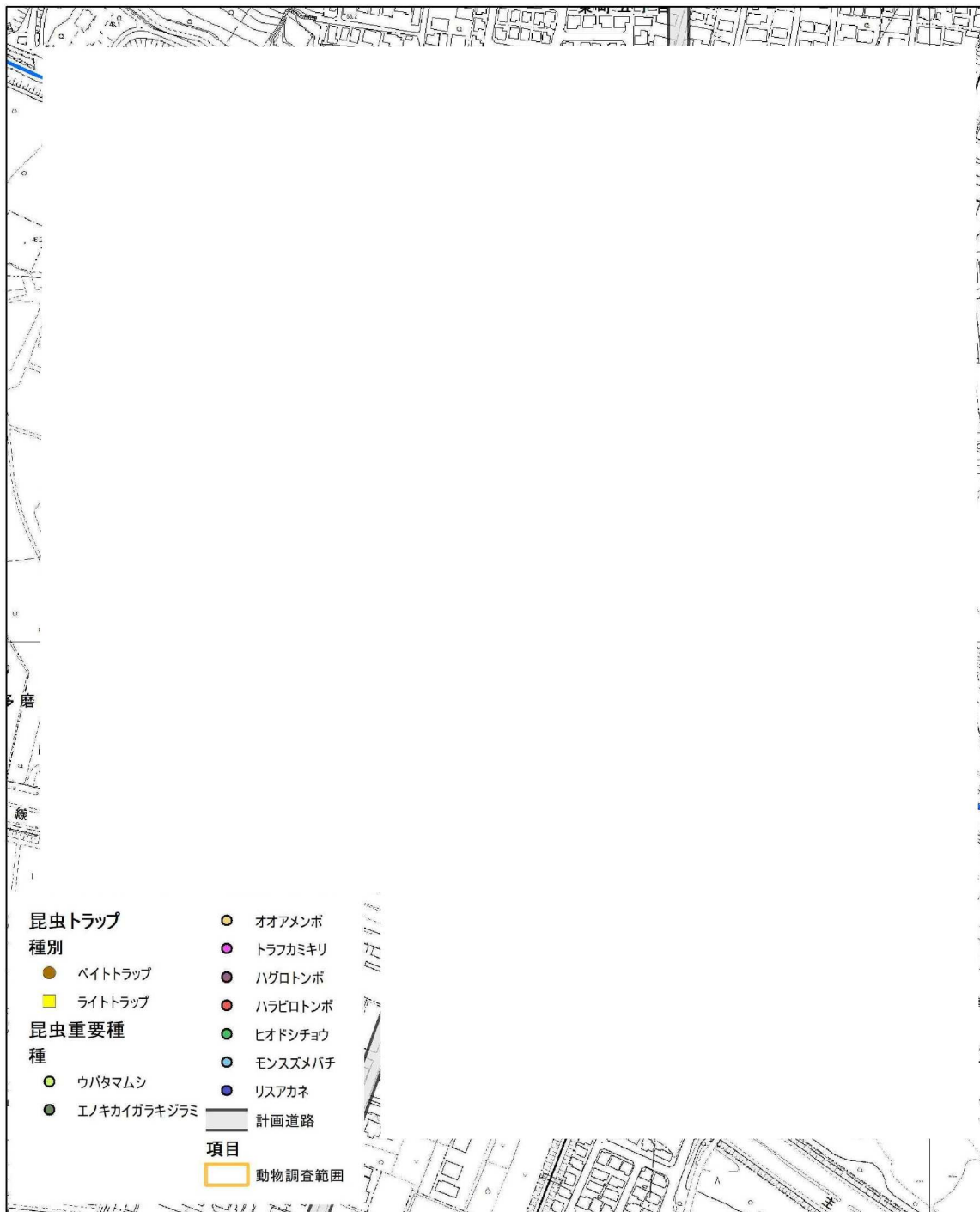


表 4.4-2 昆虫重要種確認位置

表 4.4-3 昆虫の重要種(1)

	ハグロトンボ	
	東京都レッドリスト ランク外(○)	
	生態等	本州、四国、九州、屋久島の平地、丘陵地のヨシなどが茂る緩やかな流れの近くに生息するが付近の樹林地でもみられる。5~10月頃にみられるが、とくに夏季に多い。
確認状況	夏季の昆虫類調査では で確認されたが、底生動物や魚類調査には で多くみられた。	
	ハラビロトンボ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧(NT)	
	生態等	小型のトンボ。腹部が扁平。北海道から種子島まで分布し、平地の浅い池沼、湿地、休耕田などに生息する。水が干上がるよう場所でも幼虫が生息できる。
確認状況	夏季の調査で、 で1個体が確認されたほか、7月にも で1個体が確認された。	
	リスアカネ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧(NT)	
	生態等	体長31-46mmほどの小型の赤とんぼ。北海道から九州まで分布。平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼でみられる。
確認状況	夏季に で1個体が確認された。個体数は多くないようであった。	
	エノキカイガラキジラミ	
	環境省レッドリスト 準絶滅危惧(NT)	
	生態等	本州と九州の丘陵地から低山地に分布する。全長4~5mmのキジラミ(カメムシ目)。幼虫はエノキの葉にツノ状の虫えいを形成し、開口部を貝殻状の白色分泌物で覆う習性がある。
確認状況	今回の調査では春季に4か所で多数の虫えいが確認された。調査範囲には多数のエノキがあり、さらに精査すればより多く確認される可能性がある。	

表 4.4-4 昆虫の重要種(2)

	オオアメンボ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
生態等	本州、四国、九州の池沼や河川の開けた水面にみられる大型のアメンボ。体長は19-27mmほどで脚が長い。	
確認状況	夏季に で複数の個体が確認されたほか、底生動物調査時にも確認されている。	
	ヒオドシチョウ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
生態等	日本全国の平地から山地に生息する。幼虫はエノキの葉を集団で食べる。成虫は年1回発生、成虫で越冬する。	
確認状況	春季に2箇所のエノキを食べる多数の幼虫が確認された。	
	ウバタマムシ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
生態等	体長40mmほどで銅色の鈍い金属光沢がある。体の上面にしわ状の隆起がある。幼虫はマツなどの材を食べる。	
確認状況	夏季に で1個体が確認された。	
	トラフカミキリ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
生態等	体長20mm前後で黒地に黄色の縞模様があるカミキリムシ。北海道から沖縄まで分布する。成虫はクワやクリなどの葉を食べ、幼虫は桑野材を食べる。	
確認状況	夏季に で1個体が確認された。	

表 4.4-5 昆虫の重要種(3)

	モンズズメバチ	
	環境省レッドリスト 情報不足(DD)	
	生態等	体長 30mm ほどの中型のスズメバチ。北海道から九州までの雑木林でよく見かける。
確認状況	夏季に	で2個体が確認された。

表 4.4-6 昆虫の確認種(1)

No.	目名	科名	種名	春季				夏季				重要種			
				公園		任意		公園		任意		東京都2020	多摩部 本土部		
				任意	任意	St.1 ベイト	St.2 ライト	任意	任意	St.1 ベイト	St.2 ライト				
1	トンボ目	イトトンボ科	ホソイトトンボ	●											
2			アジアイトトンボ												
3		カワトンボ科	ハグロトンボ												
4		ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	●											
5			ギンヤンマ	●											
6		サナエトンボ科	オナガサナエ												
7		トンボ科	ハラビロトンボ											NT	NT
8			シオカラトンボ	●											
9			オオシオカラトンボ												
10			ウスバキトンボ												
11			コシアキトンボ												
12			コシメトンボ												
13			リスアカネ											NT	NT
14	ゴキブリ目	ゴキブリ科	ヤマトゴキブリ	●											
15		チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	●	●										
16	カマキリ目	カマキリ科	ハラビロカマキリ	●	●										
17			オオカマキリ												
18	シロアリ目	ミノガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ		●										
19	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	ヒガシロハサミムシ			●									
20			コバネハサミムシ	●											
21			ハマバハサミムシ												
22		クロハサミムシ科	ミジンハサミムシ												
23	カワゲラ目	オナシカワゲラ科	オナシカワゲラ科の一種		●										
24	バッタ目	ツユムシ科	サトウダマキモドキ												
25			ツユムシ												
26		キリギリス科	ヒメギス	●	●										
27			クサキリ												
28			ヤブキリ	●	●										
29		マツムシ科	アオマツムシ												
30		コオロギ科	モリオカメコオロギ												
31			タンボロコオロギ	●											
32			クマズムシ												
33			ツツレサセコオロギ												
34		カネタタキ科	カネタタキ												
35		ヒバリモドキ科	ヤチスズ												
36		バッタ科	ショウリョウバッタ												
37			ヒナバッタ	●	●										
38			ショウリョウバッタモドキ												
39			クルマバッタモドキ												
40			イボバッタ												
41		イナゴ科	ハネナガイナゴ												
42			ツチイナゴ	●											
43		オンブバッタ科	オンブバッタ												
44		ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ												
45			ハネナガヒシバッタ	●											
46			コバネヒシバッタ		●										
47			ハラヒシバッタ		●										
48			ヒメヒシバッタ	●											
49	カメムシ目	ウンカ科	ヒトビウンカ												
50			コブウンカ												
51		ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ												
52		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ												
53		マルウンカ科	ヒロスクリヒウンカ												
54		ハゴロモ科	ステバハゴロモ												
55			ベッコウハゴロモ												
56		セミ科	アブラゼミ												
57			ミンミンゼミ												
58			ツクツクボウシ												
59			ニイニゼミ												
60			ヒグラシ												
61		ヨコバイ科	ソマゲロオヨコバイ	●											
62			オオヨコバイ	●	●										
63			コムシク		●										
64			Pagaronia属の一種	●	●										
65			クルマヒロスヨコバイ		●										
66			クロヒラタヨコバイ	●	●										
67		キジラミ科	クワキジラミ	●	●										
68			エノキカイガラキジラミ	●	●										
69		アブラムシ科	エンドウヒゲナガアブラムシ	●	●										
70		サンガムシ科	シマサンガムシ	●	●										
71		ゲンバイムシ科	ウチワゲンバイ												
72			アワダチソウゲンバイ	●	●										
73			ヤブガラシゲンバイ	●	●										
74			ヘクカスラゲンバイ	●	●										
75			ツツジゲンバイ	●	●										
76		カスミカメムシ科	シイノキカスミカメ	●	●										
77			Deracoris属の一種	●	●										
78			オシダカスミカメ		●										
79			ハギメノガタカスミカメ		●										
80			ツヤクカスミカメ	●	●										
81			キアシクロホソカスミカメ	●	●										
82			クロヒョウタンカスミカメ	●	●										
83			クヌギトビカスミカメ	●	●										
84		ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ												
85			ニセヒメヘリカメムシ		●										
86			ホソヘリカメムシ	●	●										
87		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	●	●										
88			ホソヘリカメムシ	●	●										
89			ホシハラヒロヘリカメムシ	●	●										
90			ツマキヘリカメムシ	●	●										
91		ヒメヘリカメムシ科	アカヒメヘリカメムシ												
92			ブチヒメヘリカメムシ												
93		ナガカメムシ科	ニッポンコバネナガカメムシ												
94			オオモンシロナガカメムシ												
95			ヒメナガカメムシ												

表 4.4-6 昆虫確認種(2)

No.	目名	科名	種名	春季				夏季				重要種	
				公園		公園		公園		公園		環境省 2020	東京都2020
				任意	任意	任意	任意	任意	任意	任意	任意		
				SL1	SL2	SL1	SL2	SL1	SL2				
				ベイト	ライト	ベイト	ライト	ベイト	ライト	ベイト	ライト		
				任意	任意	任意	任意	任意	任意	任意	任意		
96			ヒゲナガカメムシ	●	●			●					
97			コバネヒョウタンナガカメムシ	●	●			●	●				
98			ヒメシユウジナガカメムシ	●	●			●	●				
99		メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ	●	●			●	●				
100		ツチカメムシ科	ヒメツチカメムシ	●	●			●					
101			コツチカメムシ	●	●			●					
102			ツチカメムシ	●	●			●					
103		カメムシ科	ウスラカメムシ	●	●			●					
104			ブチヒゲカメムシ	●	●			●					
105			ハナダカカメムシ	●	●			●					
106			キマダラカメムシ	●	●			●					
107			ナガメ	●	●			●					
108			ムラサキシラホシカメムシ	●	●			●					
109			エビロカメムシ	●	●			●					
110			クサギカメムシ	●	●			●					
111			ナカボシカメムシ	●	●			●					
112		マルカメムシ科	マルカメムシ	●	●			●					
113		クスギカメムシ科	ヘラクサギカメムシ	●	●			●					
114		アメンボ科	オオアメンボ	●	●			●				NT	NT
115			アメンボ	●	●			●					
116			ヒメアメンボ	●	●			●					
117			ヤスマツアメンボ	●	●			●					
118		カタピロアメンボ科	Microvelia属の一種	●	●			●					
119	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	ヨツボシクサカゲロウ	●	●			●					
120			ススキクサカゲロウ	●	●			●					
121		ヒメカゲロウ科	ホソバヒメカゲロウ	●	●			●					
122			ウスバカゲロウ	●	●			●					
123	トビケラ目	ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ	●	●			●					
124		シマトビケラ科	シマトビケラ科の一種	●	●			●					
125		エンキョウトビケラ科	エンキョウトビケラ	●	●			●					
126		カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ科の一種	●	●			●					
127	チョウ目	ミノガ科	チヤミナガ	●	●			●					
128		ヒロズコガ科	マダラマルハヒロズコガ	●	●			●					
129		スカシバガ科	コスカシバ	●	●			●					
130		イラガ科	ヒメタロイラガ	●	●			●					
131		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	●	●			●					
132			コチャバネセセリ	●	●			●					
133		シジミチョウ科	ムラサキシジミ	●	●			●					
134			ルリシジミ	●	●			●					
135			ウラギンシジミ	●	●			●					
136			ツバメシジミ	●	●			●					
137			ベニシジミ	●	●			●					
138			ヤマトシジミ本土亜種	●	●			●					
139		タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン	●	●			●					
140			ゴマダラチョウ本土亜種	●	●			●					
141			ルリタテハ本土亜種	●	●			●					
142			テングチョウ日本本土亜種	●	●			●					
143			クロノマチョウ	●	●			●					
144			ヒメジャノメ	●	●			●					
145			サトキマダラヒカゲ	●	●			●					
146			コムシ本州以南亜種	●	●			●					
147			ヒオドシチョウ	●	●			●				NT	NT
148			キタテハ	●	●			●					
149			アカボシゴマダラ	●	●			●					
150			ヒメカササギ	●	●			●					
151		アゲハチョウ科	カラサギハ本土亜種	●	●			●					
152			クローガハ本土亜種	●	●			●					
153			アゲハ	●	●			●					
154		シロチョウ科	ホシキチョウ	●	●			●					
155			キタキチョウ	●	●			●					
156			ホシシロチョウ	●	●			●					
157		メイガ科	ウスベントガリメイガ	●	●			●					
158			フタスジシマメイガ	●	●			●					
159		マドガ科	マドガ	●	●			●					
160		シャクガ科	キアミナミシャク	●	●			●					
161			ハミスジエダシャク	●	●			●					
162		スズメガ科	ホシホウジャク	●	●			●					
163		シャチホコガ科	ウスキシヤチホコ	●	●			●					
164		ヒトリガ科	クワゴマダラヒトリ	●	●			●					
165		ドクガ科	キアシドクガ	●	●			●					
166			マイマイガ	●	●			●					
167		ヤガ科	ナシケンモン	●	●			●					
168			ナカグロクチバ	●	●			●					
169			トビスシアツバ	●	●			●					
170			ソトウスグロアツバ	●	●			●					
171			クビグロクチバ	●	●			●					
172			ワンモンクチバ	●	●			●					
173			ミスジアツバ	●	●			●					
174			デンオビヨトウ	●	●			●					
175			ハグルマトモエ	●	●			●					
176		コブガ科	トビイロコブガ	●	●			●					
177	ハエ目	ヒメガガンボ科	ヒメガガンボ科の一種	●	●			●					
178		ガガンボ科	Tipula属の一種	●	●			●					
179		カ科	ヒトスジシマカ	●	●			●					
180		ケバエ科	Bibio属の一種	●	●			●					
181		タマバエ科	エノキトリタマバエ	●	●			●					
182		ミスアブ科	Beris属の一種	●	●			●					
183			アメリカミスアブ	●	●			●					
184			ヒメネグロミスアブ	●	●			●					
185		ムシヒキアブ科	アオメアブ	●	●			●					
186			ハラボソムシヒキ	●	●			●					
187			オオイシアブ	●	●			●					
188			オミマカリケムシヒキ	●	●			●					
189			シオヤアブ	●	●			●					
190		アシナガバエ科	Doilichopus属の一種	●	●			●					

表 4.4-6 昆虫確認種(3)

No.	目名	科名	種名	春季				夏季				重要種			
				公園		公園		公園		公園		東京都2020	多摩部	本土部	
				任意	任意	St.1 ペイト	St.2 ライト	任意	任意	St.1 ペイト	St.2 ライト				
191		ハナアブ科	オオヒメシラタアブ	●											
192			ホソヒラタアブ	●	●										
193			キヨウコシマハナアブ	●					●						
194			ナミハナアブ	●											
195			Eumerus属の一種	●	●										
196			ナミホシシラタアブ	●	●										
197			アシトハナアブ	●	●										
198			タカサゴハラフトハナアブ	●											
199			ツヤヒラタアブ	●					●						
200			スイセンハナアブ	●											
201			キアシマヒラタアブ	●					●						
202			オオハナアブ	●					●						
203			コマバムツホシヒラタアブ	●					●						
204			ホソヒメシラタアブ	●					●						
205			マガイヒラタアブ	●					●						
206			ナミルリイロハラナガハナアブ	●	●				●						
207		キモグリバエ科	キモグリバエ科の一種	●					●						
208		ショウジョウバエ科	Drosophila属の一種	●			●		●		●				
209		トゲハネバエ科	トゲハネバエ科の一種	●											
210		ナガスヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ	●					●						
211		デガシラバエ科	Campylocera属の一種	●										●	
212		ヤチバエ科	ヒゲチガヤチバエ	●					●						
213		クロバエ科	オヒキバエ	●					●						
214			ツマグロキンバエ	●											
215		イエバエ科	イエバエ科の一種	●			●								
216		ニクバエ科	ホリニクバエ	●										●	
217			シリクロニクバエ	●					●						
218	コウチュウ目	ホソカビゴミムシ科	オオホソカビゴミムシ	●	●									●	
219		オサムシ科	マルガタゴミムシ	●	●				●						
220			オオホシボシゴミムシ	●	●				●						
221			ヒメゴミムシ	●	●				●						
222			アオオサムシ関東平野多摩川以北亜種	●	●				●					●	
223			アオゴミムシ	●	●				●					●	
224			ムナビロアオゴミムシ	●	●				●					●	
225			オオスナハラゴミムシ	●	●				●					●	
226			セアカヒラタゴミムシ	●	●				●						
227			マルガタゴモクムシ	●	●				●						
228			ヒメケゴモクムシ	●	●				●						
229			オオヨツアナアトキリゴミムシ	●	●				●						
230			オオヒラタゴミムシ	●	●				●						
231			コガシラナガゴミムシ	●	●				●					●	
232			キンナガゴミムシ	●	●				●					●	
233			アシミズナガゴミムシ	●	●				●						
234			マメゴモクムシ	●	●				●						
235			ムネアガマゴモクムシ	●	●				●						
236			イナホシマゴモクムシ	●	●				●						
237			オオカワツキヒラタゴミムシ	●	●				●						
238		ハンミョウ科	トウキョウヒメハンミョウ	●	●				●						
239		ゲンゴロウ科	ホソヒゲシゲンゴロウ	●	●				●						
240		エンハムシ科	コエンハムシ	●	●				●						
241			キノアガカルエンハムシ	●	●				●						
242		シデムシ科	オオヒラタシデムシ	●	●				●					●	
243		ハネカクシ科	ルイスツヤセシハネカクシ	●	●				●					●	
244			クロストガリハネカクシ	●	●				●					●	
245			クロカリベナガエハネカクシ	●	●				●					●	
246			クロサビイロマルズオオハネカクシ	●	●				●					●	
247			Philonthus属の一種	●	●				●					●	
248			アカハトガリオオズハネカクシ	●	●				●					●	
249		センチコガネ科	センチコガネ	●	●				●					●	
250		クワガタムシ科	クワガタ	●	●				●					●	
251		コガネムシ科	アオドウガネ	●	●				●					●	
252			ヒラタアオコガネ	●	●				●					●	
253			コアオハナムグリ	●	●				●					●	
254			オガチヤコガネ	●	●				●					●	
255			アシナガコガネ	●	●				●					●	
256			ヒラタハナムグリ	●	●				●					●	
257			マメコガネ	●	●				●					●	
258			シラホシハナムグリ(移入個体群)	●	●				●					●	
259			シロテンハナムグリ	●	●				●					●	
260			カナブン	●	●				●					●	
261			カブトムシ	●	●				●					●	
262		タマムシ科	ウハタマムシ	●	●				●					●	
263			クズチビタマムシ	●	●				●					●	
264		コメツキムシ科	サビキコリ	●	●				●					●	
265			ムナビロサビキコリ	●	●				●					●	
266			ホソサビキコリ	●	●				●					●	
267			アカハラクロコメツキ	●	●				●					●	
268			オオハナコメツキ	●	●				●					●	
269			クロツヤクシコメツキ	●	●				●					●	
270			クシコメツキ	●	●				●					●	
271			オオナガコメツキ	●	●				●					●	
272			クチブコメツキ	●	●				●					●	
273		ジョウカイボン科	Asiopodabrus属の一種	●	●				●					●	
274			セボシジョウカイ	●	●				●					●	
275		ホタル科	ムネグイロホタル	●	●				●					●	
276		ベニボタル科	コクハナボタル	●	●				●					●	
277		カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ	●	●				●					●	
278			チビケカツオブシムシ	●	●				●					●	
279		ムクゲキスイムシ科	アカゲロムクゲキスイ	●	●				●					●	
280		テントウムシ科	ムーンアロホシテントウ	●	●				●					●	
281			フタモンクロテントウ	●	●				●					●	
282			オナホシテントウ	●	●				●					●	
283			トホシテントウ	●	●				●					●	
284			オミテントウ	●	●				●					●	
285			オオニジュウヤホシテントウ	●	●				●					●	

表 4.4-6 昆虫確認種(4)

No.	目名	科名	種名	春季				夏季				重要種						
				公開 任意	任意	St.1		St.2		公開 任意	閉鎖管理地 任意	St.1		St.2		東京都2020	多摩部	本土部
						ペイト	ライト	ペイト	ライト			ペイト	ライト	ペイト	ライト			
286			キロテントウ	●							●							
287			ヨツボシテントウ								●							
288			モンクチビルテントウ	●														
289			ヒメカメノコテントウ		●													
290			ツマアカヒメテントウ		●													
291			クロツキテントウ	●														
292		オオキノコムシ科	ルリオオキノコムシ		●													
293		オオキスイムシ科	ヨツボシオオキスイ		●													
294		ヒメマキムシ科	ウスキケシマキムシ				●			●								
295			クロオビケシマキムシ				●											
296		ケシキスイ科	ナガコグチケシキスイ		●						●							
297			チビコオニケシキスイ		●						●							
298			モンチビヒラタケシキスイ			●			●									
299			ヨツボシケシキスイ		●						●							
300			アカマダラケシキスイ									●						
301			クロキマダラケシキスイ	●								●						
302			マルキマダラケシキスイ									●						
303		ヒメハナムシ科	トビロヒメハナムシ									●						
304			フタスジヒメハナムシ	●														
305		ホソヒラタムシ科	ミツモンセマルヒラタムシ	●							●							
306			フタゴホソヒラタムシ	●							●							
307		カミキリモドキ科	モモブトカミキリモドキ	●														
308		チビキカワムシ科	ヒメクチキムシダマシ	●														
309		ゴミムシダマシ科	ホシドトビロクチキムシ								●							
310			ヒゲアトゴミムシダマシ						●									
311			サトコアシゴミムシダマシ		●					●								
312			ナミクチキムシ	●														
313		カミキリムシ科	シラゲトラクカミキリ		●													
314			キイロトラカミキリ	●														
315			ノキリカミキリ													●		
316			キヨシカミキリ							●								
317			ヒメクロトラカミキリ		●													
318			ヤマハダカミキリ													●		
319			トラカミキリ							●								
320		ハムシ科	アカガネサルハムシ							●								
321			ヘリグロテントウノミハムシ	●						●								
322			ウリハムシ	●														
323			クロウリハムシ	●							●							
324			ハンノキサルハムシ	●														
325			バラリツツハムシ	●														
326			クロボシツツハムシ	●														
327			クワハムシ	●														
328			コガタリハムシ	●														
329			ヤツボシハムシ	●														
330			ドウガネサルハムシ							●	●							
331			キベリクビボソハムシ		●													
332			クロウスバハムシ	●	●													
333			ニホンケブカサルハムシ	●														
334			フタスジヒメハムシ							●								
335			Neocrepidodera 属の一種							●								
336			ブタクサハムシ							●								
337			マルキバネサルハムシ							●								
338			ヤナギルリハムシ							●								
339			ニレハムシ	●														
340			クロリトゲハムシ	●														
341		ヒゲナガゾウムシ科	ユゴトゲナガゾウムシ								●							
342			ウスモンツツヒゲナガゾウムシ								●							
343		オトシブミ科	ユゴツルクビオトシブミ	●	●						●							
344			ハイイロチョウキリ								●							
345		ゾウムシ科	ツヤツツゾウムシ			●												
346			エゾヒメゾウムシ							●								
347			メナガチブトゾウムシ							●								
348			タバタネサソゾウムシ		●						●							
349			コフキゾウムシ	●	●						●							
350			ヤサイゾウムシ							●								
351			マダラメカクシゾウムシ													●		
352			ツツシトゲムネサルゾウムシ							●								
353			カシワチブトゾウムシ		●					●								
354			カシワノミゾウムシ		●					●								
355			アカアシノミゾウムシ		●					●								
356			オジロアシナガゾウムシ		●													
357			ツルヒゲボソゾウムシ								●							
358			オオクチブトゾウムシ		●													
359			スグルゾウムシ							●	●							
360			ヒレルクチブトゾウムシ		●					●	●							
361			チビコフキゾウムシ		●						●							
362		ナガキクイムシ科	カシノナガキクイムシ								●							
363		キクイムシ科	ドドマツオオキクイムシ								●							
364	ハチ目	ハバチ科	ハグロハバチ		●													
365			セグロカブラハバチ		●													
366			クロムネハバチ	●	●													
367			クロムネアオハバチ	●	●													
368			サクラヒメハバチ	●	●													
369		コマユバチ科	ハネグロアカコマユバチ		●					●								
370		ヒメバチ科	ヒメバチ科の一種	●	●					●								
371		アリガタバチ科	ムカシアリガタバチ	●	●													
372		アリ科	オオハリアリ	●							●							
373			クロオオアリ								●							
374			ミカドオオアリ								●							
375			ヨツボシオオアリ	●							●							
376			ウメマツオオアリ		●													
377			ハリブシリアガアリ	●							●							
378			キイロシリアガアリ								●					●		
379			シベリアカタアリ								●							
380			クローヤマアリ	●							●	●						

表 4.4-6 昆虫確認種(5)

No.	目名	科名	種名	春季					夏季					重要種				
				公園 任意	任意	St.1 ベイト	St.2 ベイト	ライト	公園 任意	閉鎖管理地 任意	St.1 ベイト	St.2 ベイト	ライト	重要種 環境省 2020	東京都2020	多摩管 本土部		
381			トビイロケアリ					●				●	●	●				
382			カワラケアリ	●						●	●	●						
383			ヒラアシクサアリ		●					●	●							
384			ヒメアリ							●	●							
385			アメイリアリ		●	●	●	●		●	●		●					
386			サクラアリ							●	●							
387			アズマオオズアリ			●		●		●	●		●					
388			アミメアリ	●	●	●				●	●	●						
389			ムネボソアリ	●						●	●							
390			トビイロシワアリ	●						●	●							
391		スズメバチ科	オオフトオビドロバチ 本土亜種								●							
392			エントツドロバチ								●							
393			フタモンアシナガバチ 本土亜種	●														
394			セグロアシナガバチ 本土亜種							●	●							
395			キボシアシナガバチ							●	●							
396			コアシナガバチ	●						●	●							
397			カダグロチビドロバチ	●						●	●							
398			コガタスズメバチ		●					●	●							
399			モンズズメバチ							●	●							
400			チャイロスズメバチ							●	●					DD		
401			オオスズメバチ	●	●					●	●							
402			キロスズメバチ							●	●							
403		クモバチ科	オオモンクモバチ							●	●							
404			オオシロアケクモバチ							●	●							
405		アリバチ科	ヤマトアリバチモドキ							●	●							
406		コツチバチ科	Tiphia属の一種							●	●							
407		ツチバチ科	ヒメハラチガツチバチ 本土亜種							●	●							
408		アナバチ科	ヤマシガバチ							●	●							
409			クロアシバチ 本土亜種							●	●							
410		ヒメハナバチ科	アブラナヒメハナバチ		●													
411			コガタウツギヒメハナバチ	●														
412		ミツバチ科	スジボソツハナバチ								●							
413			ニホンミツバチ	●														
414			セイヨウミツバチ	●						●								
415			ニッポンヒゲナガハナバチ	●														
416			シロスジヒゲナガハナバチ	●														
417			ウシツノキマダラハナバチ	●														
418			ダイミョウキマダラハナバチ	●	●													
419			キムネクマバチ	●	●													
420		コハナバチ科	アカガネコハナバチ							●	●							
421			アオスジコハナバチ							●	●							
422			ミスホヤドリコハナバチ							●	●							
423		ハキリバチ科	トモンハナバチ							●	●							
424			ヤトガリハナバチ							●	●							
425			ハラアカヤドリハキリバチ							●	●							
	14目	136科	425種	161種	123種	8種	8種	12種	12種	181種	118種	18種	7種	19種	14種	2種	6種	6種

種の名前及び種別は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データベース,国土交通省)に準拠した。
 環境省2020:環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表)(令和2年3月,環境省)
 EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
 東京都2020:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)-東京都レッドリスト(本土部)2020年版-(令和3年,東京都環境局)の「北多摩地区」「多摩地区」の掲載種
 EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:絶滅危惧 DD:情報不足 *:留意種

4.4.2 既往資料による重要種

野川の自然再生事業実施地においても昆虫類の調査が実施されている。この調査では昆虫の重要種は表 4.4-7 に示す9種が確認されている。これらのうち、今回の調査ではウバタマムシとトラフカミキリの2種が確認されている。

表 4.4-7 自然再生事業の調査で確認された昆虫の重要種(平成20年度～平成31年度)

No.	科	科	種	既往調査(2008~2019年)			今回調査	重要種	
							2021年	環境省2020	東京都2020
1	トンボ	アオイトトンボ	アオイトトンボ	●	●				VU
2		イトトンボ	キイトトンボ	●					EN
3		トンボ	マユタテアカネ	●	●	●			NT
4			ミヤマアカネ	●	●	●			NT
5	チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ	●	●	●		NT	NT
6		タテハチョウ	ジャノメチョウ	●					NT
7			ホシミスジ	●	●				VU
8	コウチュウ	タマムシ	ウバタマムシ			●	○		NT
9		カミキリムシ	トラフカミキリ		●		○		NT
10	ハチ	スズメバチ	キボシトックリバチ			●			DD
11			モンズズメバチ	●	●	●			
	4科	8科	11種	8種	7種	6種	2種	1種	11種

種の名称及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データベース, 国土交通省)に準拠した。

重要種:

環境省2020: 環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表) (令和2年3月, 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A類 EN: 絶滅危惧 I B類 VU: 絶滅危惧 II類 NT: 純絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020: 東京都の保護上重要な野生生物種(木上部)-東京都レッドリスト(木上部)2020年版-(令和3年 東京都環境局)

の「北多摩地区」「多摩地区」の掲載種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A類 EN: 絶滅危惧 I B類 VU: 絶滅危惧 II類 NT: 純絶滅危惧 DD: 情報不足 *: 留意種

「野川生物調査委託(その12)報告書」, 令和2年3月, 東京都北多摩南部建設事務所・株式会社フィスコより作成

4.5 魚類調査

4.5.1 現地調査

魚類調査は夏季(8月20日)の1回実施した。調査を行ったのは野川の2区間と自然再生事業実施地(どじょう池、湿地、周辺水路)である。

調査の結果、3目4科11種類の魚類が確認された。最も多く採捕されたのはヒガシシマドジョウで16個体、次いでオイカワ11個体、モツゴ10個体などとなっている。

重要種は、オイカワ、ヒガシシマドジョウ、ミナミメダカのほか、種の同定に至らなかったフナ類とドジョウ類(ドジョウ・キタドジョウ)の5種類である。ドジョウ類は近年、遺伝子レベルの分析から外観から識別の難しい複数の種からなることが明らかになっており、今回確認されたものはドジョウかキタドジョウと考えられる。ドジョウ類(ドジョウ・キタドジョウ)は目視による確認である。ドジョウ類(ドジョウ・キタドジョウ)を除いては調査を行った野川の全域で比較的多く確認されている。ドジョウ類(ドジョウ・キタドジョウ)は、流れのない泥底に生息するため、目視による確認された。

表 4.5-1 魚類調査結果

No.	目	科	種	場所			合計	重要種			外来種	
				St.1	St.2	St.3		東京都2020				
				野川 (下流)	野川 (上流)	自然 再生地		環境省	北多摩	本土部		
				2020								
1	コイ目	コイ科	コイ(飼育型)	2			2				国内	
2			フナ類	2	3	1	6		DD	DD	-	
3			タイリクバラタナゴ	1			1					国外
4			オイカワ	9	2		11		DD	DD		
5			ヌマムツ	6	2		8					
6			モツゴ	8	2		10					国内
7			タモロコ	6	2		8					国内
8		ドジョウ科	ドジョウ類(ドジョウ・キタドジョウ)			1	1	NT・DD	DD	DD		
9			ヒガシシマドジョウ	3	13		16		VU	VU		
10	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ		1		1				国内	
11	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	2	2	3	7	VU	CR	CR		
	3目	4科	11種類	39	27	5	71	2種類	5種類	5種類	5種類	

種の名称及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データベース,国土交通省)に準拠した。

環境省2020:環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表)(令和2年3月,環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:純絶滅危惧 DD:情報不足

LP:絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)-東京都レッドリスト(本土部)2020年版-(令和3年 東京都環境局)の「北多摩地区」、「本土部」の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:純絶滅危惧 DD:情報不足 *:留意種

※1:「フナ類」と「ドジョウ類」は確実な種の同定に至らなかったが、それぞれ「ギンブナ」および「ドジョウ」「キタドジョウ」

に該当する可能性が高いため重要種として扱った。

※2:外来種は「改訂増補日本の淡水魚」(山と溪谷社,2019年)による。「国内」は国の他地域から移入されたもの、「国外」は国内からの移入種

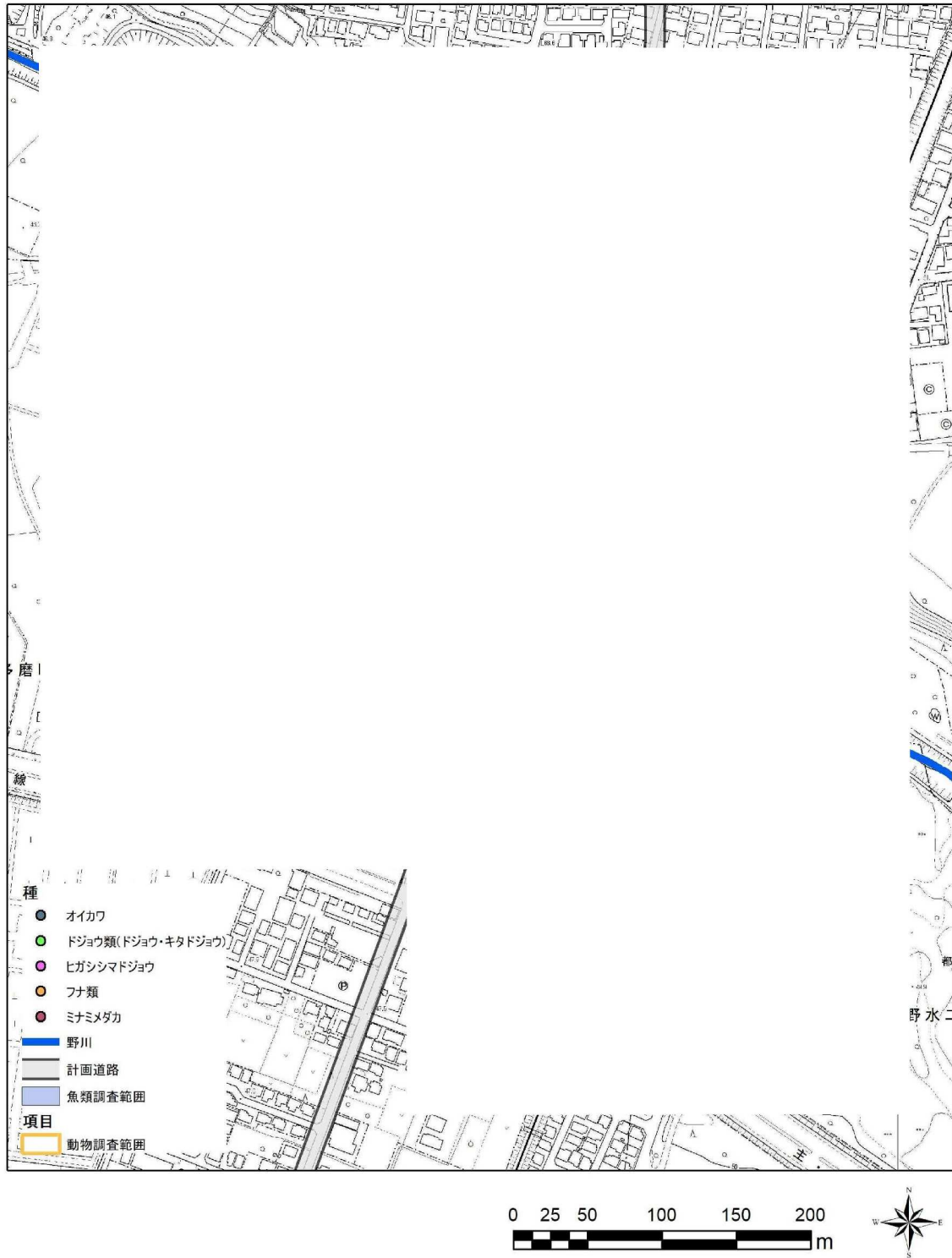


図 4.5-1 魚類重要種確認位置

表 4.5-2 魚類の重要種(1)






	フナ類	
	東京都レッドリスト 情報不足 (DD)	
	生態等	他軌道から沖縄までの河川や農業用水路、ため池など広い範囲の淡水に生息する。大きなものは 30cm を超える。雑食性である。
	確認状況	で 5 個体が採捕されたほか、でも見られた。
	オイカワ	
	東京都レッドリスト 情報不足 (DD)	
	生態等	河川の中下流や水路、湖沼に生息する。関東以西が本来の分布域であるが東北地方にも移入されている。尻びれが長い。
	確認状況	、 で合計 11 個体が採捕された。
	ドジョウ類 (ドジョウ・キタドジョウ)	
	環境省レッドリスト 準絶滅危惧 (NT) ・ 情報不足 (DD) 東京都レッドリスト 情報不足 (DD)	
	生態等	水田や用水路、湿地帯など流れのない泥底に生息する。近年、日本全国にみられる「ドジョウ」と外見から識別困難な「キタドジョウ」に分けられた。
	確認状況	で目視により確認された。
	ヒガシマドジョウ	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
	生態等	関東以北の河川中流域の砂泥、砂礫底に生息する。川に流れ込む細流などで 5~6 月に産卵する。
	確認状況	、 で合計 16 個体が採捕された。

表 4.5-3 魚類の重要種(2)

	ミナミメダカ	
	環境省レッドリスト 絶滅危惧 II 類 (VU)	
	東京都レッドリスト 絶滅危惧 IA 類 (CR)	
	生態等	平野部の河川。池沼、水田、農業用水路など流れが緩やかで植物のよく茂った水域に生息する。東北地方の太平洋側から西日本にかけて分布する。
確認状況	で合計 7 個体が採捕された。	



4.5.2 既往資料による確認種

自然再生事業の調査で平成20年度から平成31年度に と で確認された魚類と今回確認された魚類を表4.5-4に示す。既往の調査では22種類の魚類が確認されている。既往の調査で確認されて今回確認されなかったのは、タナゴ、カワムツ、アブラハヤ、ウグイ、ホトケドジョウ、グッピー、オオクチバス、スミウキゴリ、ウキゴリ、旧トウヨシノボリ類であるが、確認個体数は多いものでも5個体以下であったり、確認年度が1～2年度のみや近年の記録がないものであった。

表 4.5-4 既往の調査で確認された魚類との比較

No.	種			今回調査	備考
1	コイ	●	●	○	
2	キンギョ	●	●		
3	ギンブナ	●	●	○	
4	タナゴ		●		
5	タイリクバラタナゴ	●		○	
6	オイカワ	●	●	○	
7	カワムツ	●	●		
8	ヌマムツ	●	●	○	
9	アブラハヤ	●	●		
10	ウグイ	●			
11	モツゴ	●	●	○	
12	タモロコ	●	●	○	
13	ドジョウ	●	●	○	
14	シマドジョウ	●	●	○	現在はヒガシシマドジョウ
15	ホトケドジョウ	●			
16	ナマズ		●	○	
17	グッピー	●			
18	メダカ	●	●	○	現在はミナミメダカ
19	オオクチバス	●			
20	スミウキゴリ	●	●		
21	ウキゴリ	●	●		
22	旧トウヨシノボリ類	●	●		
		20種類	17種類	11種類	

過年度に記録のある「フナ属」「コイ科」「ドジョウ科」は略した。

過年度に記録のある「シマドジョウ」は今回確認されたヒガシシマドジョウ、「メダカ」はミナミメダカとして整理した。

4.6 底生動物調査

4.6.1 現地調査

底生動物調査は春季に実施予定であったが、本年度は3月から6月中旬まで野川の調査対象区間が渇水状態で、6月下旬に流量が回復したため夏季(7月29日)に実施した。調査を行ったのは野川の2区間と自然再生事業実施地(どじょう池、湿地、周辺水路)である。

調査の結果、4門8綱18目37科66種類が確認された。分析結果を表4.6-2に示す。

重要種はスジエビとオオアメンボと半陸生であるナガオカモノアラガイが確認された。ナガオカモノアラガイは で2個体が確認された。スジエビは の調査区間で3個体が確認された。オオアメンボは の区間で1個体が確認されたほか、前述のとおり昆虫類の調査でも確認されている。

表 4.6-1 底生動物の重要種



	ナガオカモノアラガイ	
	環境省レッドリスト 準絶滅危惧 (NT) 東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	大きさは15mmほど。北海道から九州までの小川や水田用水路、側溝などの水際、植物帯に生息する。
	確認状況	調査区間の水際植物上で2個体が確認された。
	スジエビ	
	東京都レッドリスト 留意種	
	生態等	オスは35mmほど、メスは50mmほどの淡水性のエビで黒褐色の筋模様がある。日本全国の川や池に生息する。
	確認状況	調査区間で3個体が確認された。
	オオアメンボ	
	東京都レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)	
	生態等	本州、四国、九州の池沼や河川の開けた水面にみられる大型のアメンボ。体長は19-27mmほどで脚が長い。
	確認状況	底生動物調査時には の調査区間で1個体が確認された。ほかに昆虫類調査でも夏季に確認されている。



図 4.6-1 底生動物重要種確認位置

4.6.2 既往資料による重要種

野川の自然再生事業実施地においても底生動物の調査が実施されている。この調査では表 4.6-3 に示すとおり 6 種の重要種が確認されている。これらのうち、今回の調査ではスジエビが確認されているほか、ハグロトンボは成虫が底生動物調査や魚類調査時などに多く確認されている。

表 4.6-3 自然再生事業の調査で確認された底生動物の重要種(平成 20 年度～平成 31 年度)

	綱・目	種	既往調査(2008～2019年)		今回調査	重要種	
					2021年	環境省2020	東京都2020
1	エビ	スジエビ	●	●	○		*
2		モクズガニ		●			*
3	昆虫	ハグロトンボ	●	●	※		○
4		ヤマサナエ		●			VU
5		ミズカマキリ	●				VU
6		ゲンジボタル		●			NT
		6種	3種	5種	2種	0種	6種

※：ハグロトンボは、成虫の目撃による確認である。

種の名称及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(2020年版)」(河川環境データベース,国土交通省)に準拠した。

重要種:

環境省2020:環境省レッドリスト2020の公表について(報道発表)(令和2年3月,環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:純絶滅危惧 DD:情報不足

LP:絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)-東京都レッドリスト(本土部)2020年版-(令和3年 東京都環境局)の「北多摩地区」「多摩地区」の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:純絶滅危惧 DD:情報不足

*:留意種 ○:ランク外(各カテゴリー)

「野川生物調査委託(その12)報告書」,令和2年3月,東京都北多摩南部建設事務所・株式会社フィスコより作成

5 考察及びモニタリング計画案作成

5.1 調査結果の考察

5.1.1 植物相

今回の植物相の調査結果では、植栽されたものが起源と考えられるものや外来種が多いが、調査範囲が公園であること、また、住宅地に隣接しているために人為的な影響を強く受けた植物相となっているためといえる。しかしながら、公園内や の林床にはキンランやギンラン、ニリンソウといった重要種が生育しており、住宅地に隣接した公園にも関わらず、林床の植物相は比較的良好な状態を保っていると言える。

また、 の草地や 、 の立地には、ノカンゾウ、カワヂンヤ、ミクリやウキヤガラが多数確認されており、こうした水辺や草地の重要種の貴重な生育地となっている。

道路事業による影響としては、道路構造によっては道路敷地内が直接改変により生育できなくなるもののほか、道路周辺が日照や風況などの環境変化が生じるなど間接的影響を受ける可能性がある。

5.1.2 動物相

(1) 哺乳類

今回の調査で確認された哺乳類は、公園や耕作地など人為的な土地利用が進んだ環境で生息可能な種(ホンドタヌキは東京区部でも多数が生息している)、外来種であるアライグマを含めて4種と少なかった。調査対象範囲が住宅地や道路などに囲まれ、行動範囲が広い哺乳類にとって良好な環境とは言えないためと考えられる。なお、閉鎖管理地でアカネズミが確認されているが、本種は北多摩地域では重要種に該当していない。今回確認されたのは孤立した閉鎖管理地であり、個体数は1個体であった。

道路事業の影響としては、道路構造によっては道路敷地が改変されることにより生息に適さなくなるもののほか、哺乳類の移動経路を分断したり、事故による個体の死亡が考えられる。

(2) 鳥類

調査範囲内の鳥類相は、ヒヨドリやムクドリ、シジュウカラといった住宅地から農村地帯で普通に見られる種が中心となっているが、ヤマガラやアオゲラ、イカルといった雑木林や森林に生息する種も確認されている。また、 ではカワセミやアオサギといった水辺に生息する鳥類も確認されている。こうしたことから確認された種数は冬季と春季あわせて36種と比較的が多い。調査対象範囲は、住宅などに囲まれているものの、広い範囲にわたって樹木に覆われ、また、野川沿いには草地があることなどによるものと考えられる。

重要種はオオタカなど8種であるが、計画路線の周辺で繁殖が確認されている種はない。ただし、今後、道路予定地周辺の樹木等で繁殖する可能性は排除できない。

道路事業の影響としては、道路構造によっては道路敷地が改変されることにより餌場などとして利用できなくなるもののほか、通行車両との衝突や道路予定地周辺で繁殖していた場合

は、道路工事中や供用後の騒音、振動や道路利用者の存在により営巣地として利用しなくなることが考えられる。

(3) 両生類・爬虫類

両生類・爬虫類の調査では、ヒキガエル、ニホンカナヘビ、ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリなど8種類が確認されている。これらのうち、ニホンアマガエルと外来種であるミシシippアカミミガメ、ウシガエルを除いては重要種に該当しているが、民家の庭や公園などで生息可能な種である。こうしたことから、調査範囲の両生類・爬虫類相は、人為的な影響が強い環境でも生息し得るものと言える。

道路事業の影響としては、道路構造によっては道路敷地が改変されることにより餌場などとして利用できなくなるもののほか、両生類・爬虫類の移動経路を分断することにより事故による個体の死亡が考えられる。また、両生類の主要な繁殖場所と考えられる自然再生事業の水田やどじょう池、湿地などは、道路予定地から50m程度離れており直接的な改変は受けないが、日照の変化や移動経路の分断等を介した間接的な影響が生じる可能性がある。

(4) 昆虫類

昆虫類の調査では425種類が確認されている。主な昆虫としては、野川沿いの草地でヒメウラナミジャノメやキタテハ、ヤマトシジミ本土亜種などのチョウやツチイナゴなどのバタ類がみられた。また、での樹林ではクロコノマチョウやコクワガタ、モンスズメバチなど樹液に集まる昆虫がみられた。とくに自然再生事業で造られた池沼ではホソミイトトンボやクロスジギンヤンマなどのトンボ類が確認された。概して緑の豊富な公園や雑木林、草地、水辺に見られる昆虫相を示していると言える。

道路事業の影響としては、道路構造によっては道路敷地が改変されることにより生息場所として適さなくなるもののほか、日照の変化や移動経路の分断等を介した間接的な影響が生じる可能性がある。

(5) 魚類

魚類は11種類が確認されている。調査対象区間のは、河床は砂礫であり、兩岸の大部分は植生に覆われている。このため、砂礫の河床を好むヒガシマドジョウが多く採捕され、また植生帯ではミナミメダカやフナ類、ナマズなどが確認された。水面がやや開けた場所ではオイカワやヌマムツといった遊泳魚がみられた。

今回の道路事業では、河床部の改変は行われないが、橋梁構造となる場合は日照の変化により植生帯がなくなるなど魚類の生息に影響を及ぼす可能性は否定できない。

一方、自然再生事業のどじょう池や湿地、水田などは泥質で流れがない小規模な水域となっている。このため、確認された魚類も3種類に止まった。池や湿地は道路予定地から50m程度離れており、また野川と接続する水路は直接的な改変されないが、橋梁構造となる場合は日照の変化による植生の変化が生じる可能性がある。

(6) 底生動物

今回の調査結果では、トンボ類の幼生が4種類とやや少ないなど底生動物はやや乏しかったが、今回の調査区間の野川は春季に渇水状態であったためと考えられる。しかしながら確認された種にはカワニナなどきれいな水に生息する種が含まれており、概ね良好な底生動物相を示している。道路事業による影響は、魚類と同様に、河床の改変は行われぬものの、橋梁構造となる場合は一部の区間が日照の変化により環境の変化が生じる可能性がある。

5.2 モニタリング計画(案)の策定

5.2.1 調査項目の選定

今回の道路計画は、道路構造によっては、ほぼ連続した緑に覆われている武蔵野公園を分断する形で計画されている。このため、道路敷地に動植物が生育・生息できなくなるほか、道路周辺に日照の変化が生じたり、風況の変化、あるいは動物の移動経路を分断するなど間接的な影響が予想される。こうした間接的な影響の程度を予測することは困難である。ここでは、道路敷地から の範囲内に植物の生育地や動物の繁殖地が限定されており、道路事業に影響によって調査範囲周辺地域での個体数の大幅な減少が想定される重要種をモニタリングの対象と考えた。さらに、動植物相の変化を把握するために一般的な種についても対象とした。

道路敷地境界から の範囲は、既往の研究により植生への道路の影響がおよぶ範囲が とされていることによる。

・重要種

今回の調査で確認された重要種のうち、道路敷地近くに生育場所や繁殖場所などその種にとって重要な場所が限定されているものについて、個体数の変化を把握することを目的とする調査。

・動植物相(一般種)

道路敷地を含む範囲で動植物相に大きな変化が生じないか把握することを目的とした調査

影響のおよぶ重要種は、表 5.2-1 に示すとおり、道路敷地から を目安として、植物の生育場所や動物では繁殖場所が限定されるものを対象とすることとした。野川については道路が野川を横断し、水生生物（魚類・底生動物）の移動経路になっていることから距離にかかわらず対象とした。

また、重要種以外の一般的な種の調査範囲は、今回の調査と同様、植物は道路敷境界 100m、動物は 250m とした。

表 5.2-1 現地調査の範囲

分類群	項目	影響が想定される重要種
植物	重要種	道路敷地境界から 以内に限られるものを対象として生育数を把握する。
	植物相(一般種)	道路敷地境界から 100m の範囲の植物相を把握する。
動物(陸域)	重要種	重要種の繁殖場所(巣や産卵場所)、あるいは重要な餌場などが道路敷地境界から 以内に限られるものとする。
	動物相(一般種)	道路敷地境界から 250m の範囲の生物相を把握する。
水生生物 (魚類・底生動物)	水生生物相(一般種)・重要種	計画路線が野川を横断するため、道路敷地境界から 250m の範囲で 2 区間程度の魚類および底生動物を対象とする。

5.2.2 対象とする重要種

今回の調査で確認された重要種は、植物 9 種類、動物 28 種であるが、既往の調査(平成 20 年度から実施されている自然再生事業地の調査)を合わせると表 5.2-2 に示す植物 21 種、動物 44 種になる。

これらの中では、とくに植物のキンランとササバギンランは確認された個体数が多いものではなく、また、生育場所が ことから道路の影響が生じる可能性がある。なお、キンラン、ササバギンランともに共生する菌類を含めての保全が必要であり、移植は困難とされている。ノカンゾウも生育場所が ことから十分な配慮が必要と考えられる。ミクリとウキヤガラといった水生の植物は、 や に広く生育しており、個体数も多く一部の生育場所は影響を受けることが予想されるが、大部分の生育場所は影響を受ける可能性は低い。他の種は、生育地が道路敷地境界と 以上離れており大きな影響は想定されない。

動物については、ヒキガエルの繁殖地が と考えられ、

の範囲であるため、間接的な影響の可能性を否定できない。また、魚類、底生動物の主な生息場所である野川は、橋梁構造となる場合は道路が橋梁で横断することから部分的に日陰になり、隠れ場となる植生の変化を通じて影響が生じる可能性を否定できない。

他の動物については、道路構造によっては生息地の分断が生じると考えられるが、今回の調査範囲は、既設の道路や鉄道により分断されていることから、今回の道路事業のみで大幅な個体数の減少が生じるとは考えにくい。

表 5.2-2 現地調査と既往の調査で確認された重要種と想定される影響

項目	種名	今回の調査	既往の調査	事業による影響
植物	ナツノハナワラビ	●		今回確認された生育地は計画路線から100m程度離れており影響をうけるおそれはない。
	シデコブシ		●	平成27年度に今回の調査範囲外の で1株が確認されているが、植栽されたものとされている。道路事業の影響はないと考えられる。
	キンラン	●		今回確認されたのは20株程度と多いものではなく、計画路線から最も近い生育地点は 程度であり、道路構造によっては日照の変化などによる影響をうけるおそれがある。
	ササバギンラン	●		今回確認されたのは数株と多いものではなく、生育地点は計画路線から 程度であり、道路構造によっては日照の変化などによる影響をうけるおそれがある。
	ノカンゾウ	●	●	今回確認された生育地は計画路線から約 程度と比較的近距离である。道路構造によっては日照の変化等の影響を受ける恐れがある。
	キツネノカミソリ		●	平成20年度に で確認されているがその後は確認されていない。平成20年度以降生育が確認されていないことから道路事業の影響はないと考えられる。
	ミクリ	●	●	計画路線は生育地を一部 する。橋梁構造となる場合は一部の生育地が橋梁の に入るため、影響が生じる可能性がある。しかしながら生育地は、現状では調査範囲に広くあり、生育数も多いことから影響は限定的と考えられる。
	ウキヤガラ	●	●	計画路線は生育地を一部 する。橋梁構造となる場合は一部の生育地が橋梁の に入るため、影響が生じる可能性がある。しかしながら生育地は、現状では調査範囲に広くあり、生育数も多いことから影響は限定的と考えられる。
	ミコシガヤ	●	●	今回確認された生育地は計画路線からやや離れているが、生育数は多くなく、今後も留意する必要がある。
	カンエンガヤツリ		●	平成28,30年度に今回の調査範囲外の や で確認されている。生育地が調査範囲外であるため道路事業の影響はないと考えられる。
	クロテンツキ		●	今回の調査範囲外の で平成21年度以降、確認されているほか、 や でも記録されているが、道路予定地より 以上離れており、影響は少ないと考えられる。
	ヌメリグサ		●	平成28年度に で確認されたがその後は記録されていない。平成29年度以降確認されていないことから、道路事業の影響はないと考えられる。
	ニリンソウ	●		生育地は計画路線の敷地境界から離れており影響をうけるおそれはない。
	タコノアシ		●	平成28年度に今回の調査範囲の で1株確認されたが、生育場所が荒れされたために消失したとされ、その後は確認されていない。平成29年度以降確認されていないことから、道路事業の影響はないと考えられる。
	ズミ		●	平成29年度の調査で で確認されたが、その後は記録されていないことから道路事業の影響はないと考えられる。
	ジャヤナギ		●	平成30年度の調査で で1株確認されている。その後は確認されていないが、小型の株だったため、消失したとされる。生育が確認されていないことから道路事業の影響はないと考えられる。
	カワヂシャ	●	●	今回確認された生育地は計画路線から100mほど離れており影響をうけるおそれは少ないと考えられる。
	コムラサキ	●	●	や で複数年度にわたり確認されている。今回の調査でも確認されているが、園芸品種として植栽されたもの、あるいは植栽されたものからの逸出したものである可能性が高いことから道路事業の影響は少ないと考えられる。
	ハッカ		●	で平成30年度を含む複数年度に確認されているほか、 でも記録がある。平成31年度以降確認されていないことから道路事業の影響はないと考えられる。
	ミゾコウジュ		●	今回の調査範囲外の 、 で平成31年度に確認されているほか、平成30年度にも記録がある。生育地が道路予定地から離れており、影響は少ないと考えられる。
タカサブロウ		●	平成29年度に 、 、 で確認されている。今回の調査では近縁のアメリカタカサブロウが確認されている。平成30年度以降確認されていないことから道路事業の影響はないと考えられる。	

表 5.2-3 現地調査と既往の調査で確認された重要種と想定される影響

項目	種名	今回の調査	既往の調査	事業による影響
鳥類	クイナ	●		繁殖しうる環境は計画路線の敷地や影響が想定される範囲には存在しないことから大きな影響をうける可能性は少ない。
	オオタカ	●		今回の調査では道路事業地周辺での営巣は確認されなかったため、大きな影響を受ける可能性は少ない。
	カワセミ	●		今回の調査では影響が想定される範囲内での繁殖は確認されなかったため、大きな影響を受ける可能性は少ない。
	モズ	●		今回の調査では影響が想定される範囲内での繁殖は確認されなかったため、大きな影響を受ける可能性は少ない。
	オナガ	●		今回の調査では影響が想定される範囲内での繁殖は確認されなかったため、大きな影響を受ける可能性は少ない。
	センダイムシクイ	●		今回の調査では影響が想定される範囲内での繁殖は確認されなかったため、大きな影響を受ける可能性は少ない。
	イカル	●		今回の調査では影響が想定される範囲内での繁殖は確認されなかったため、大きな影響を受ける可能性は少ない。
両生類	ヒキガエル	●		繁殖地となっている池は道路端から約 程度であり、直接改変されることはないが、間接的な影響は否定できない。
爬虫類	ニホンヤモリ	●		繁殖場所は特定されていないが、繁殖地として利用可能な環境は調査範囲全体に広くみられることから大きな影響は想定されない。
	ヒガシニホントカゲ	●		繁殖場所は特定されていないが、繁殖地として利用可能な環境は調査範囲全体に広くみられることから大きな影響は想定されない。
	ニホンカナヘビ	●		繁殖場所は特定されていないが、繁殖地として利用可能な環境は調査範囲全体に広くみられることから大きな影響は想定されない。
	アオダイショウ	●		繁殖場所は特定されていないが、繁殖地として利用可能な環境は調査範囲全体に広くみられることから大きな影響は想定されない。
昆虫類	アオイトトンボ		●	平成27年度に と で確認された。平成28年度以降確認されていないため、道路事業の影響について判断することは難しい。
	キイトトンボ		●	平成26年度に で確認されているが、その後は記録されていない。平成27年度以降確認されていないため、道路事業の影響について判断することは難しい。
	ハグロトンボ	●		繁殖場所と考えられる水域は であり、道路事業の影響を受ける範囲は限定的であると考えられることから大きな影響は想定されないが、幼虫期のヤゴは水生生物全般として対象となる。
	ハラビロトンボ	●		本種の繁殖場所と考えられる の は道路敷地境界から 以上離れているため、大きな影響は想定されない。
	マユタテアカネ		●	平成27年度まで 、 で確認されているが、その後は確認されていない。繁殖場所と考えられる水域は であり、道路事業の影響を受ける範囲は限定的であると考えられることから大きな影響は想定されない。
	ミヤマアカネ		●	平成27年度までには 、 で確認されているが、その後は確認されていない。繁殖場所と考えられる水域は であり、道路事業の影響を受ける範囲は限定的であると考えられることから大きな影響は想定されない。
	リスアカネ	●		繁殖場所と考えられる は道路事業の影響を受ける可能性は低いと考えられることから大きな影響は想定されない。
	エノキカイガラキジラミ	●		今回確認された場所は直接的な経変を受けない。また、確認された個体数は多く、繁殖に必要な植物(エノキ)は調査範囲に多数生育していることから大きな影響は想定されない。
	オオアメンボ	●		橋梁構造となる場合は、生息地である の一部に の変化の影響が生じる可能性がある。水生生物全般として対象とする。
	ギンイチモンジセセリ		●	では平成27、28、31年度に確認されているほか、 で も記録されている。食草は調査範囲に広くみられることから道路事業の影響は少ないと考えられる。
	ジャノメチョウ		●	平成27年度に で確認されているが、その後は記録されていない。食草は調査範囲に広くみられることから道路事業の影響は少ないと考えられる。
	ホシミスジ		●	平成31年度に 、 で確認されている。食草は調査範囲内に広くみられることから道路事業の影響は少ないと考えられる。
	ヒオドシチョウ	●		今回確認された場所は直接的な経変を受けない。また、確認された個体数は多く、繁殖に必要な植物(エノキ)は調査範囲に多数生育していることから大きな影響は想定されない。
	ウバタマムシ	●	●	今回確認された場所は直接的な経変を受けない。繁殖に必要な植物(マツ)は事業により伐採されないことから大きな影響は想定されない。
	トラフカミキリ	●	●	今回確認された場所は直接的な経変を受けない。繁殖に必要な植物(ヤマグワ、クワ)は調査範囲内に多数生育していることから大きな影響は想定されない。
	キボシトックリバチ		●	平成27年度に今回の調査範囲外の で確認されているが、その後の記録はない。確認場所は調査範囲外であり、道路事業影響は少ないと考えられる。
モンズズメバチ	●	●	今回確認されたのは道路敷地に隣接した の樹林であるが、巣は発見されていない。	

表 5.2-4 現地調査と既往の調査で確認された重要種と想定される影響

項目	種名	今回の調査	既往の調査	事業による影響
魚類	フナ類	●	●	橋梁構造となる場合は、生息場所である が一部 になることから水生生物全般として対象とする。
	タナゴ		●	平成30年度に今回の調査範囲外の で3個体が確認されている。東京都内では絶滅したと考えられており、移入されたものの可能性が高い。平成31年度以降は確認されておらず、道路事業の影響はないと考えられる。
	オイカワ	●	●	橋梁構造となる場合は、生息場所である が一部 になることから水生生物全般として対象とする。
	アブラハヤ		●	平成25年度に で1個体、平成24年度に で7個体が確認されているが、その後は確認されていない。近年の記録がないことから道路事業の影響は考えられないが、水生生物全般として対象とする。
	ヒガシシマドジョウ	●	●	橋梁構造となる場合は、生息場所である が一部 になることから水生生物全般として対象とする。
	ミナミメダカ	●	●	橋梁構造となる場合は、生息場所である が一部 になることから水生生物全般として対象とする。
	ドジョウ類	●	●	生息場所である は道路端から約 程度であり、直接改変されることはないが、水生生物全般として対象とする。
	ホトケドジョウ		●	平成22,27年度に今回の調査範囲外の の側溝で2個体ずつ確認されている。その後は確認されていないが、水生生物全般として対象とする。
	ウキゴリ		●	平成30年度に で2個体、 で1個体が確認されている。水生生物全般として対象とする。
底生動物	ナガオカモノアラガイ	●		橋梁構造となる場合は、生息場所である が一部 になることから水生生物全般として対象とする。
	スジエビ	●	●	橋梁構造となる場合は、生息場所である が一部 になることから水生生物全般として対象とする。
	モクズガニ		●	平成20,25年度に で1個体ずつ確認されているが、以降は記録されていない。水生生物全般として対象とする。
	ハダロトンボ	●	●	今回の調査では成虫が で複数確認されている。水生生物全般として対象とする。
	ヤマサナエ		●	平成30年度に1個体が で確認されている。橋梁構造となる場合は、幼虫の生息場所である が一部 になることから水生生物全般として対象とする。
	オオアメンボ	●		昆虫で記述
	ミズカマキリ		●	平成20年度に で1個体が確認されているが、その後は確認されていない。水生生物全般として対象とする。
	ゲンジボタル		●	平成29年度に今回の調査範囲外の で1個体が確認された。水生生物全般として対象とする。

5.2.3 調査内容

(1) 植物

・重要種

植物の重要種に関する調査は、上記のキンラン、ササバギンラン、ノカンゾウを対象とし、各種の個体数や生育面積と位置、開花数など生育状況を把握するものとする。調査時期は、それぞれ開花期とし、キンラン、ササバギンランは春季(4月下旬から5月上旬)、ノカンゾウは夏季(7月)とする。他の重要種については、一般種の調査で確認し、生育状況(位置や生育数等)を記録する。

・一般種

調査範囲に生育する種を把握するため、植物相の調査を行う。調査範囲は今回と同様、計画路線の両側100mの範囲とし、出現する植物(維管束植物)を記録する。重要種については、位置や生育状況、個体数等を記録する。

(2) 動物

・重要種

動物の重要種はヒキガエルである。ヒキガエルの繁殖期である春季(3~4月)に両生類・爬虫類の調査を実施し、
や
の水域で卵塊や幼生の有無を確認する。

他の重要種については、一般種の調査で確認する。

・一般種

動物相(一般種)の調査項目は、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類、魚類、底生動物とし、調査範囲は今回と同じ計画路線の両側250mの範囲とする。哺乳類については、春季もしくは秋季に1回、無人撮影、トラップによる調査を実施するものとする。鳥類については、春季(繁殖期)と大きく鳥類相が異なる冬季(越冬期)の2回とする。両生類・爬虫類はヒキガエルの繁殖時期である春季1回とする。昆虫類は、影響が想定される範囲に重要な生息場所が限定される重要種は確認されなかったが、今回の調査では重要種が8種、既往調査では自然再生事業実施地で9種の重要種が確認されていることから対象とし、調査時期は春季と夏季とする。

また、水生生物(魚類・底生動物)は、生息地である野川を計画路線が横断することから調査対象とし、調査時期は夏季(7~8月)とする。

調査範囲は、道路区域の端部から250mの範囲とする。

以上のモニタリングの概要を表5.2-4に示す。

表 5.2-4 モニタリング計画(案)の概要

大項目	項目	調査時期	調査内容
植物	植物相	春季(4月下旬～5月中旬)	キンラン、ササバギンランの個体数と位置、生育状況等を記録する。
			調査範囲を踏査し、生育する種を記録する。重要種は位置、個体数等を記録する。
		夏季(7月)	ノカンゾウの個体数や位置、生育状況等を記録する。
			調査範囲を踏査し、生育する種を記録する。重要種は位置、個体数等を記録する。なお、ミクリ、ウキヤガラについては、概数や生育範囲を記録する。
動物	哺乳類	春季もしくは秋季	トラップ、無人撮影を含む調査を実施。
	鳥類	春季(4月下旬～5月)	夏鳥が渡来し、繁殖活動を行う時期。重要種は営巣場所に注意する。
		冬季(12月～2月)	冬鳥が渡来して越冬している時期
	両生類・爬虫類	春季(4月～5月)	、等でヒキガエルの卵塊、幼生を確認する。
			調査範囲内を踏査し、両生類・爬虫類を調査する。
	昆虫類	春季(4月下旬～5月)	調査範囲内を踏査し、昆虫相を調査する。
		夏季(7～8月)	調査範囲内を踏査し、昆虫相を調査する。
	魚類	夏季(7～8月)	野川と自然再生地を対象とする。ヒガシシマドジョウ、フナ類、ギンブナは個体数等を記録する。
底生動物	夏季(7～8月)	野川を対象とする。スジエビは個体数等を記録する。	

5.2.4 調査期間

調査の期間については、モニタリングの趣旨からは長期間が望ましいが、現実的に道路工事の開始前1年間は実施し、そのうえで工事中、工事完了後について実施することが望ましい。工事完了後は、調査結果から大きな影響が認められない状況であれば1～数年程度が妥当と考えられる。数年間としたのは、道路の影響が顕著になるまでに時間がかかることが考えられるためである。

参考 植生と道路の影響圏との関連

群落名	調査地	注1) 測定方法	影響圏(m)注2)	
			道路端からの距離	林縁からの距離
(高山帯) ハイマツ群落 ハイマツ低木林	乗鞍 蔵王	(1),(2),(3) (1),(4)	15	5
(亜高山帯) コメツガ林 カラマツ林 コメツガ林 シラベ林 シラベ-オオシラビソ林 コメツガ林 ウラジロモミ-トウヒ林 オオシラビソ群集 コメツガ、シラベ、オオシラビソ林 コメツガ、シラベ林 オオシラビソ林 オオシラビソ林 オオシラビソ林	富士山 同 同 同 同 同 大台ヶ原 立山 富士山 同 乗鞍 蔵王 同	(5) (5) (5) (1) (1) (1) (1) (1) (1),(3) (1),(4),(5) (1),(4),(5) (1),(2),(3) (1),(4) (1),(4)	22 2~3 22 22~46 24~38 25 23~38	10 6~28 27 10~20 20~25 16~29
(山地帯、温帯) ブナ林 ウラジロモミ林 ウラジロモミ、ブナ林 スズタケ-ブナ林 ヒメアオキ-ブナ林 ヒメコマツ-イワウチワ群落 ブナ、ミズナラ林	大台ヶ原 富士山 大台ヶ原 同 立山 同 蔵王	(1) (1) (1) (1) (1),(3) (1),(3) (1),(4)	30~44 27~36 25~38	20 10~15 5 10
(中間温帯) ヒノキ-ツガ林 ヒノキ-ツガ林 アカマツ-ミヤマキリシマ群集 ツガ-ハインキ群集	富士山 同 霧島山 同	(1),(2),(3) (1),(2),(3) (1) (1)	11~50 42~53	4~10 4~12
(暖帯) ウラジロガシ-サカキ群集 アカガシ群集 コジイ、ウラジロガシ林	霧島山 雲仙岳 春日山	(1) (1),(3) (1),(3)	15~22 16~24	10~20
(亜熱帯) ケナガエサカキ-スタジイ群集	西表島	(1)		13~34

注1) 測定方法は、(1)種組成、(2)生活型組成、(3)その他の数量化、(4)樹木の枯損と衰弱、(5)林床植物の消長、の各方法を示した。

注2) 影響圏は、高木層が失われた草地または低木林の部分を含んでいる。「道路端からの距離」は「林縁からの距離」よりも、のり面の長さだけ長くなっている。

